



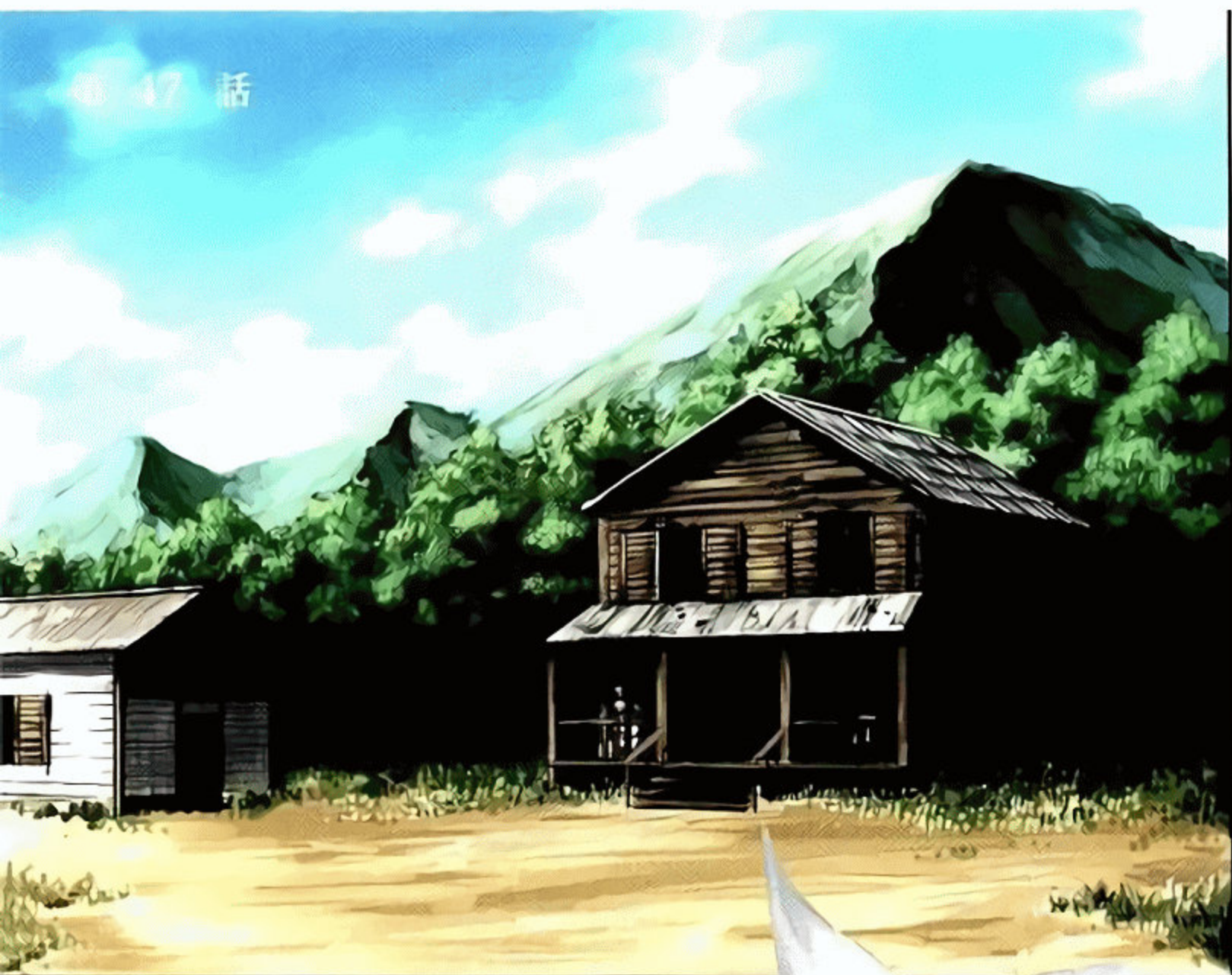
Fate

フェイト/ゼロ

10

原案 真じろう 原作 虚淵玄 TYPE-MOON  
(ニホゴブクス)









第

47 話



Fate

フェイト/ゼロ

演出 真じろう

原作 虚淵玄 / TYPE-MOON

(ニトロプラス)





Fate  
フェイト/ゼロ



10  
Contents

第 47 話

001

第 48 話

035

第 49 話

071

第 50 話

099

第 51 話

129





問題はこれを  
人間にも応用  
できるかどうかだ



時間の流れを  
操作してある

花が閉じること  
も枯れることもない

この花は  
ずっと咲いた  
ままだね



ああ

彼女は  
筋が良い

こんなところで  
燻ってるのが  
惜しいくらいだ



これって  
シャーレイの？





—sometime, somewhere—



















そう  
大昔この島は  
海の神様に  
お供え物を  
する場所だね

ところがあつた時  
病気の母親に  
食べさせる  
ものがなくて

困つた女の子が  
つい神様への供物に  
手をつけてしまった

それで女の子は  
祟りに遭つて  
沢蟹の姿に変え  
られちゃつたの

酷い話だなあ



でそれ以来  
この島で捕れる  
蟹を食べると  
どんな病気も  
たちどころに治る  
つて話になつてね

少女の母親も  
それで長思ひから  
回復したつてわけ

もろ

ますます  
酷いじゃん

とんでもない  
神様だね



その神様が  
祀つてあつた社  
つていうのは？

もうないわ

本当にあつたのか  
どうかも解らない

噂だとちようど  
ケリイのお屋敷の  
建つてる辺りが  
そうだって



じゃあ蟹にされた子は  
こんな奥深い  
ジャングルの奥まで  
わざわざ供え物を  
盗みに分け入った  
つていうのか

浜辺で魚でも  
捕まえた方が  
よっぽど楽  
だったろうに

村のみんなが  
お屋敷に近付き  
たがらないのも  
そのせいよ

不吉な場所  
なんだって

あんまり  
出入りする  
と崇られる  
アタシも脅か  
されてるのよ

そんな……  
じゃあ住んでる  
僕はどなのさ？

ケリイはもう  
余所者つていうより  
アタシの弟みたい  
な感じだからね

弟か……





だあって  
日本人の名前って  
発音が難しいん  
だもん



この島に  
越してきて  
もう一年だっけ

もうそんなに  
なるんだねえ

初めてケリイが  
来たときは日本人が  
珍しくって港に  
村中のみんなが  
押し寄せたっけ

うんでも  
自己紹介したら  
村の人たち  
僕の名前を  
ちゃんと呼べ  
なかつたんだよ

父さんののは  
呼べたのに



シャーレイが  
ケリイなんて  
呼ぶからみんなが  
真似しちゃって…

シャーレイは  
僕の本名  
ちゃんと  
覚えてる？

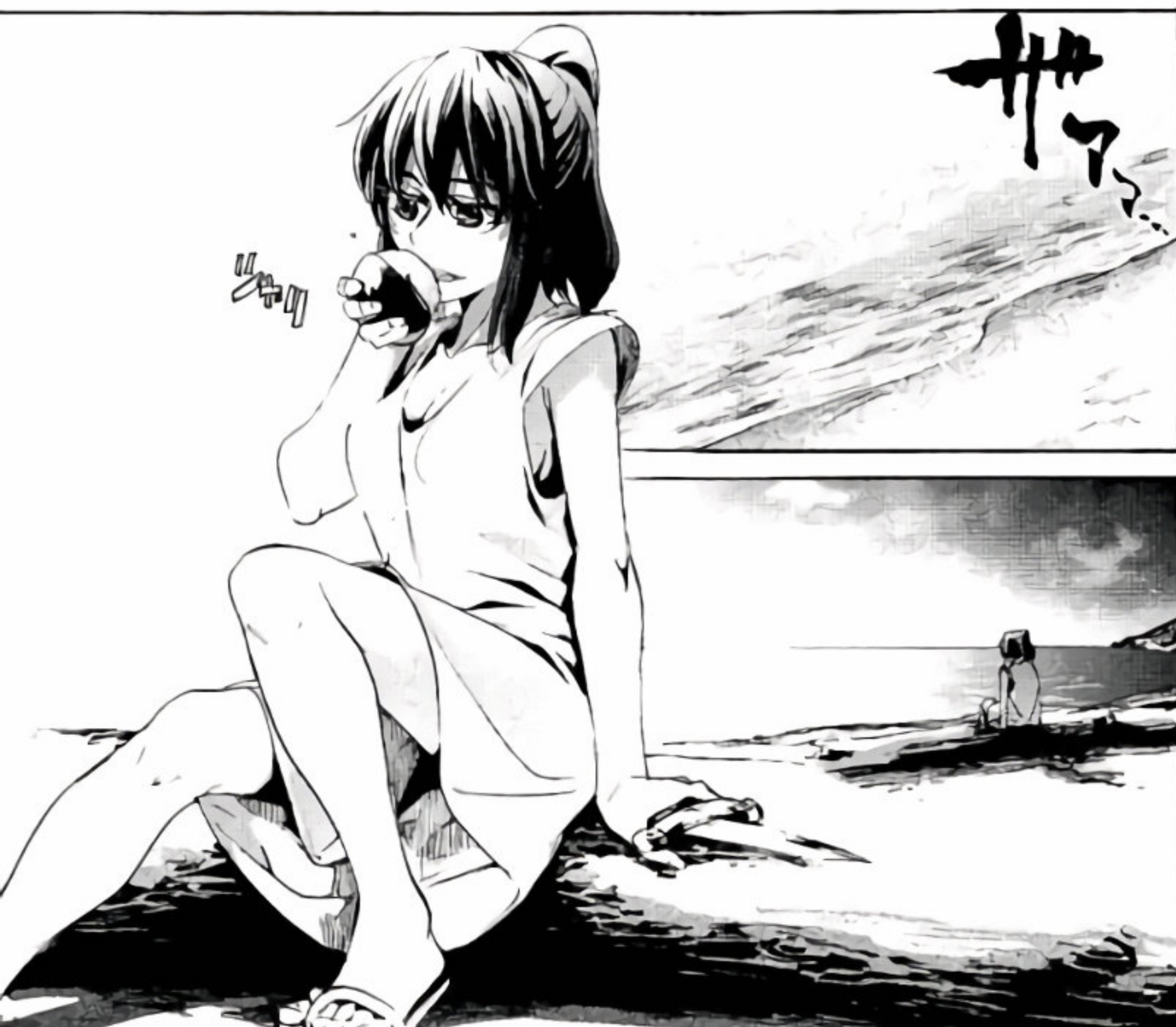
エミヤ・  
ケリトウグ  
でしょ？







もういいよ  
ケリイで……







どうしたの？  
シャーレイ

考え事なんて  
珍しいね



ケリイ



ファアザーは  
あの方のこと  
目の敵に  
してるからね

あのお屋敷で  
働いてたら  
いずれ悪魔に  
魅入られるって



ファアザー！  
シモンに説教  
喰らってさ









そりや  
怖がられて  
当然だし

だから秘密に  
してるのも  
仕方ないけど……



でもね 本当は  
凄い人なんだよ  
キミのお父さんは



彼の知識や発見は  
どれも世の中を  
ひっくり返すほど  
大変なものばかりよ



……そんなこと  
出来るのかな？

あの方は諦め  
ちゃってるね



でもアタシ  
本当はね

あの力をちゃんと  
世の中のために  
役立てて使って  
くれたらどんなに  
良かったっていつも  
思ってるんだ





何だよ

父さんの一番弟子は  
シャーレイじゃないか

父さんだって  
褒めてたし  
やるとしたら  
シャーレイだろ



でもケリイ

キミになら  
きつと  
出来ると思う



雑用係

お手伝い

だから  
肝心なところは  
何も教えて  
もらえないしね



ハハ ホント  
だとしたら  
嬉しいなあ

でもアタシは  
弟子なんか  
じゃないよ

せいぜい  
助手が  
いいところ





ただ今は  
まだ早すぎる  
ってだけ



でもねケリイは  
間違いない  
お父さんの  
跡継ぎなんだよ

お父さんが続けてる  
研究は何もかもいつか  
ケリイに引き継がせる  
ために準備してるもの  
ばかりだから



どうしよう  
かなあ



父さんは良くて  
僕はダメなの？



じゃあさ

僕が父さんの研究を  
引き継いだら  
シャーレイと一緒に  
手伝ってくれる？

ケリイと？



フフフ

ウソだってば

それって  
ケリイが大人に  
なるまで一緒に  
いて良いってこと？

でもあの方の  
研究を引き継ぐのは  
もつとケリイが  
大人になってから  
だと思ふよ

……あ……  
まあ……

……そう  
なるかな

そう

なら——

わかった







良いよ

ケリイの傍そばに  
いてあげる



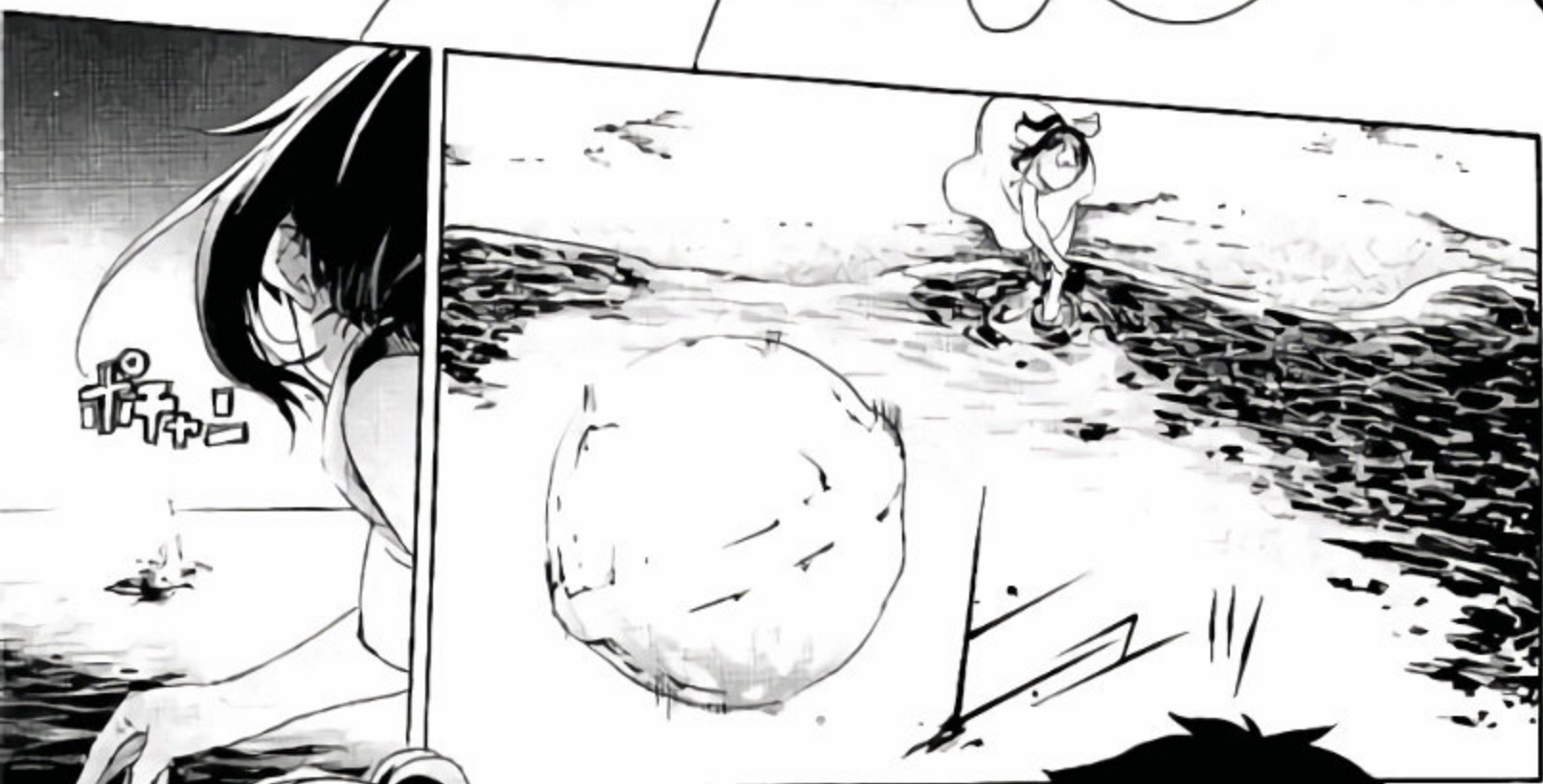


アタシの人生を  
ケリイに預けるよ













じゃあ  
大人になった  
ケリイが  
何をするのか

アタシにこの目で  
見届けさせてよ



.....



勝手にしろよ

























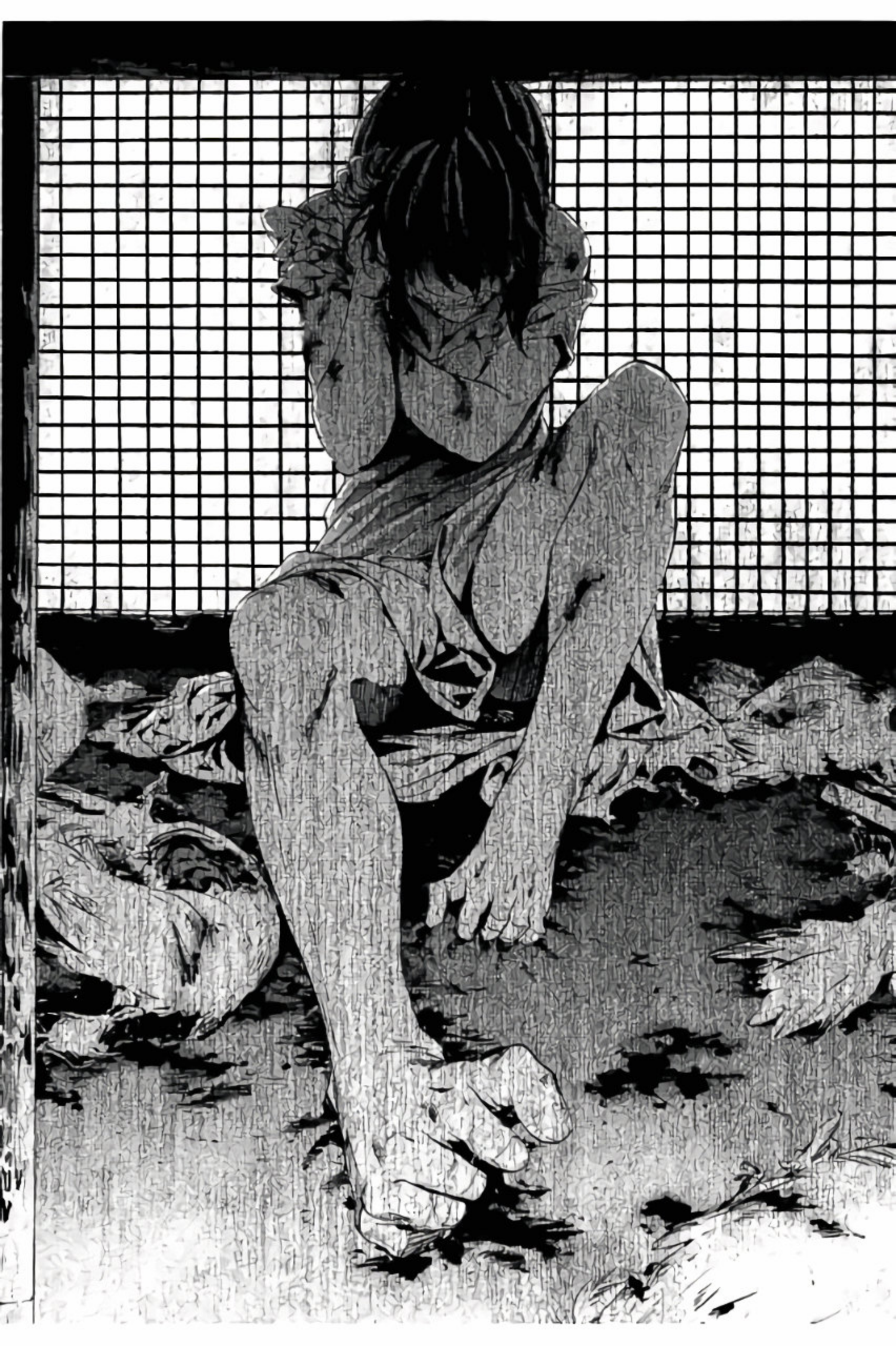
















第47話 / END



# 第 48 話

おれ

おれ

おれ  
もない

こんな鶏  
程度の血じゃ  
収まらない

このおれ  
アタシ——

チン  
チン





だからお願い

怖いの……

自分じゃ………  
できない………

ケリイがアタシを  
殺して——





どんな姿に  
なるうとも  
シヤレレイは  
シヤレレイだ

ずっと  
一緒にいると  
約束してくれ  
た大切な



そんな……

出来るわけが……

ない



もう……駄目  
だから……!

抑えきれなく  
なる前に!



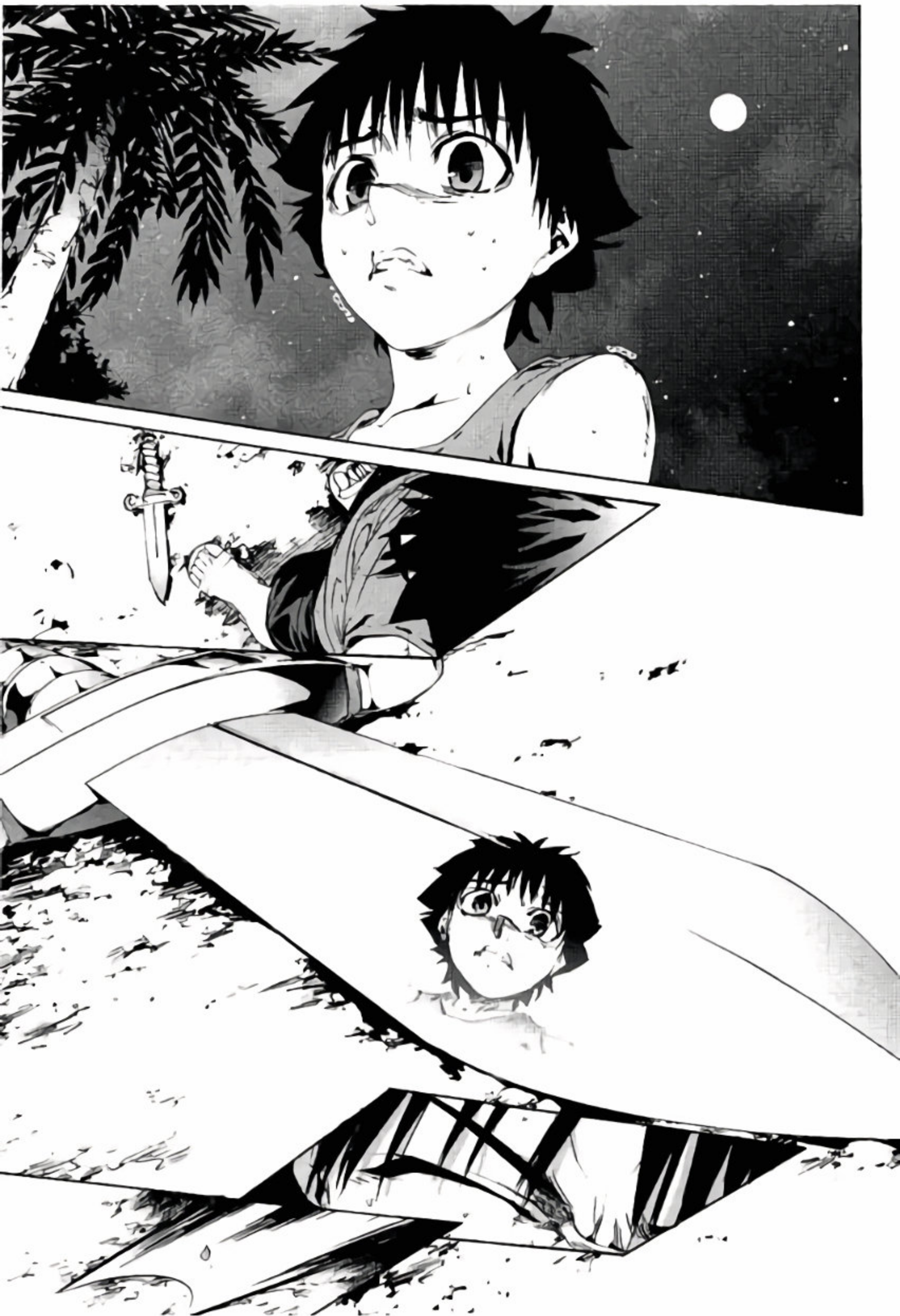
今ならまだ……  
香っと顔に合え!

……早く!





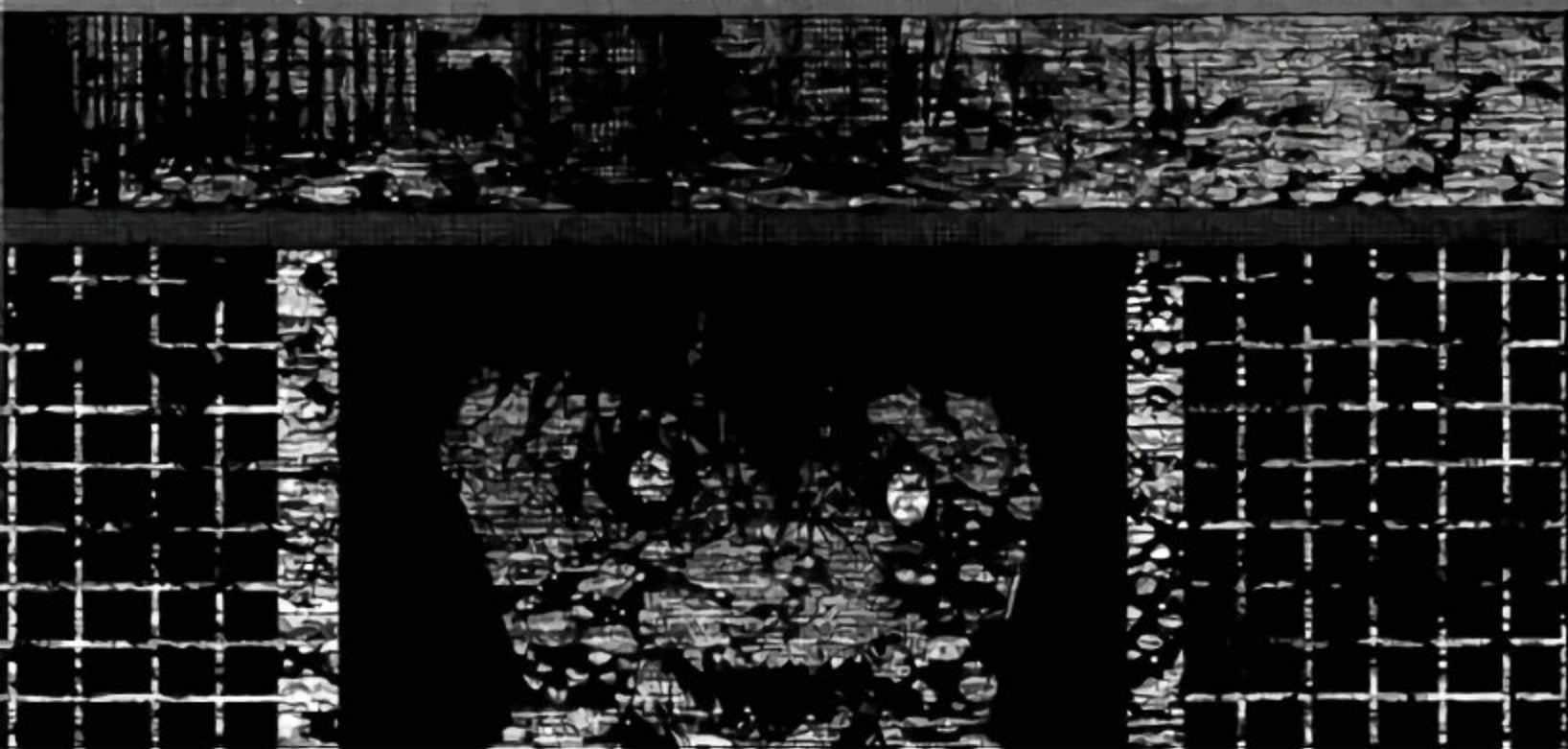
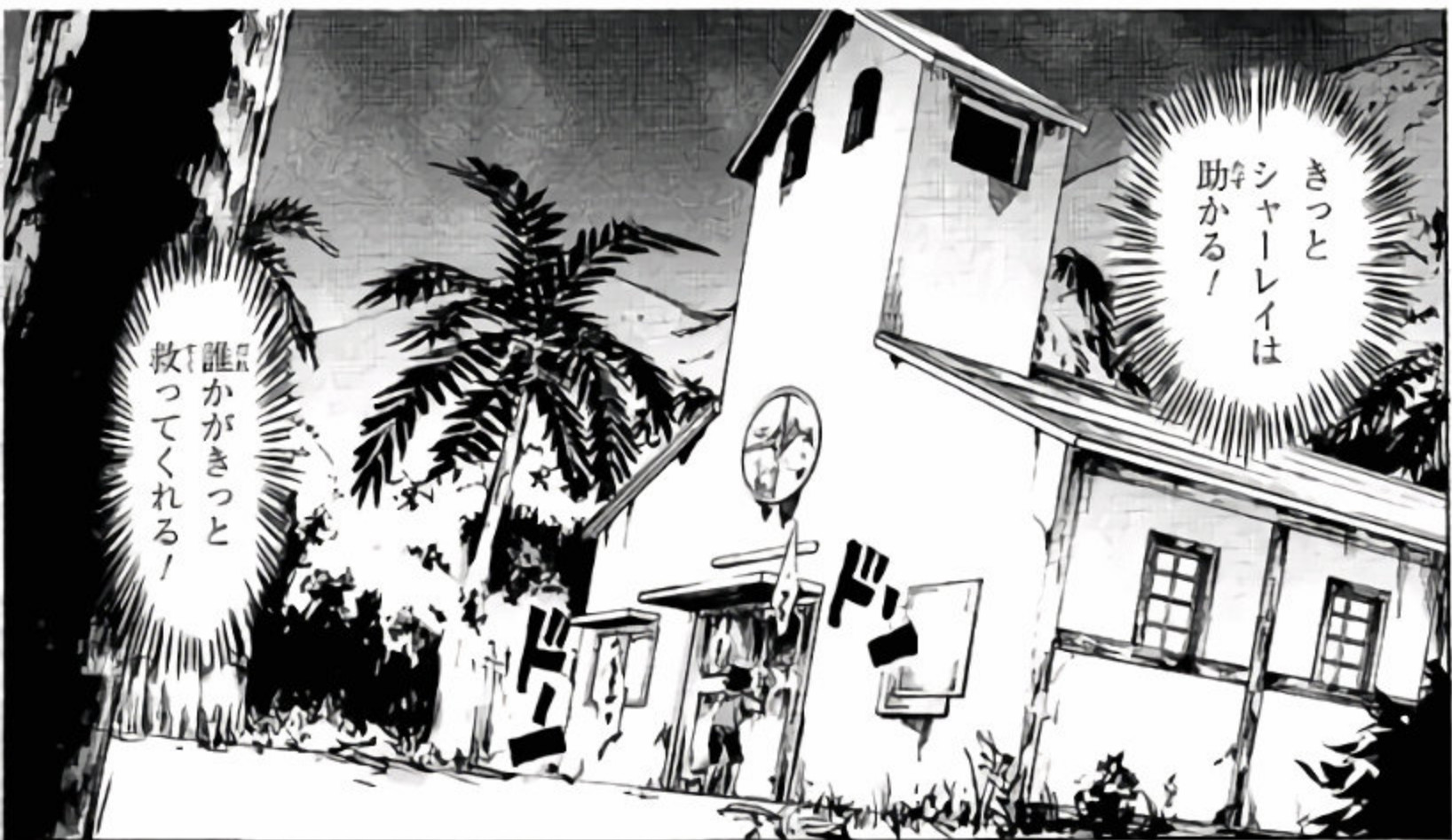




























さて坊や

私も名乗ったところで  
そろそろ質問に答えて  
欲しいんだけど



私の名前は  
ナタリア・  
カミンスキー





先に質問したのは  
こっちだよ

いい加減 正気に  
戻ってくれないかい？



……何が

……どう  
なってる？



……



今あの村で  
暴れてる連中は  
ニグループあってね

片方は  
「聖堂教会」  
の代行者

君が知ってる  
ような優しい  
神父様とは  
訳が違う





神に背いた罰当たりは  
皆殺しにしている  
と信じて疑わない連中さ

血を吸われた  
奴らも残さず  
殺すし

見分ける余裕が  
なくなれば  
血を吸われてる  
かもしれない  
奴であろうとも  
殺し尽くす

もちろん  
吸血鬼なんて  
見つけたら  
容赦しない

つまり今の連中  
まったく余裕が  
ないってこと



でもう一方の  
「協会」は  
ちよいと説明が  
難しいんだが――

当然独り占めだが  
モットーなわけだから  
他に事情を知って  
そうな奴は残さず殺す

そもそも  
吸血鬼なんていう  
奇天烈なモンを生み  
出したのが誰なのか  
その秘密を独り占め  
したいって連中だ

口封じ  
証拠隠滅

徹底的に  
やらないや  
意味がない



まあそんな  
訳で少年

君はとっても  
運がいい

今この島で  
あいつらの大掃除から  
逃げ延びて生きてる  
住人はたぶん君ぐらい  
なもんだろう

.....

心配する  
ことはない

私の力では  
どうにもできないが  
対処できる人間を  
遺してくれるよう  
連絡を付けた

そろそろ到着  
するはずだ

ガキ

おお  
話をすれば





いったい誰だ  
お前は……？







それ以上

誰も死ぬことはなかった



ああ———そうか

僕が勇気を出して  
あの時ジャイルレイの  
願いどおりにしていれば  
こんなことには  
ならなかつたんだ





私は「協会」相手の  
セールスマンさ

ヤツらが欲し  
がってる「秘密」を  
こっそりと確保し  
売り渡すのが仕事だ

勿論こうして  
大事になるより  
前でないけりや  
商売にならない

今回はちと  
出遅れ  
ちまったね



……あんたは  
どっちの味方  
なんだ？



さあ  
それじゃあ  
坊や

そろそろ私の  
質問にも答えて  
もらおうか

封印指定

——といっても  
君には何のこと  
やら解らんか

まあともかくだ

今回の吸血鬼騒ぎの  
元凶になった  
悪い魔術師が  
この島のどこかに  
隠れてるはずなんだ

君何か  
心当たりは  
ないかい？









.....



ああ  
無事だったか

本当に  
良かった……



なぜ私の  
言いつけを破った？

今日は絶対に  
森の結界から出るなと  
さんざん言い含めて  
おいた筈だぞ



……シャーレイが  
心配だった





やつぱり…

父さんはシャーレイの  
身体に何が起こったか  
知ってたんだね？

だから僕に  
外出するなって  
命令したんだね？



どうやら  
好奇心に  
勝てなかった  
らしいな



試薬は危険だから  
決して触るなと  
言っておいたんだが

……あの子に  
ついては  
本当に残念だ



……ねえ  
父さんはなぜ  
死徒の研究を？

もちろん  
私とて本意  
ではないさ

だが我ら  
衛宮の探究には  
どうあっても  
久遠の時間が要る

私かさもなければ  
せめてお前の代までには  
寿命についての対策を  
講じておく必要があった

死せる運命に  
縛られた肉体  
では「根源」は  
遠すぎる

馬鹿を言え

父さんは……  
いずれ僕のことも  
あんな姿に？

吸血衝動を  
抑えきれない  
死徒化など失敗だ



その点図らずも  
シャーレイは早々に  
答えを出してくれたな

手間暇かかった  
試薬だったが  
どうやら結果は  
芳しくない

また根幹から理論を  
見直さなければ

……そうなんだ

父さんはまだ  
この研究を続ける  
つもりなんだ

切嗣  
この話の続きは  
また今度にしよう

今は逃げる  
のが先決だ

……逃げ  
られるの？  
今から

悪いがお前に  
荷造りさせている  
余裕はない

そろそろ  
協会の連中が  
この森の結界を  
見破る頃合いだ  
すぐにも出るぞ

こんなことも  
あろうかと以前から  
南側の海岸に  
モーターボートを  
隠しておいた

備えあれば  
憂いなしだ

























どうして父<sup>ちち</sup>さんを  
殺<sup>ころ</sup>したのに  
僕はこんなに  
冷静<sup>れいせい</sup>なんだろう



すごい人なんだよ  
君のお父さんは

僕は父さんを  
魔術師を  
尊敬していた

けれどこの人が  
元凶でみんな  
殺された

シャーレイも僕も  
魔導が幸せを  
もたらすと信じていた

あの力を  
世の中のために  
使ってくれたら  
どんなに良かったら

その行いが世界を  
正しく変えるもの  
だと信じていた

それなのに――





離れる...

離れろよお



どうして  
離れないんだ!

どうして...



離れろ!





坊やに警告されたほど  
ここの結界は手強い  
モンじゃなかったよ

わりと簡単に  
突破できた



そうと解ってりや  
こんなもの  
坊やに渡すまでも  
なかったからね



この人を  
確実に殺そうと  
思ったら

僕がやるしか  
なかった

でも結局あんたが  
間に合うか  
どうかは運任せ  
だったわけだろ？



.....  
怒ってるのか？  
あんた









.....あんな

いい人なんだな



.....



何か持って  
いくものは？

後のことは  
自分で考えな

島の外までは  
連れ出してやる





ないよ



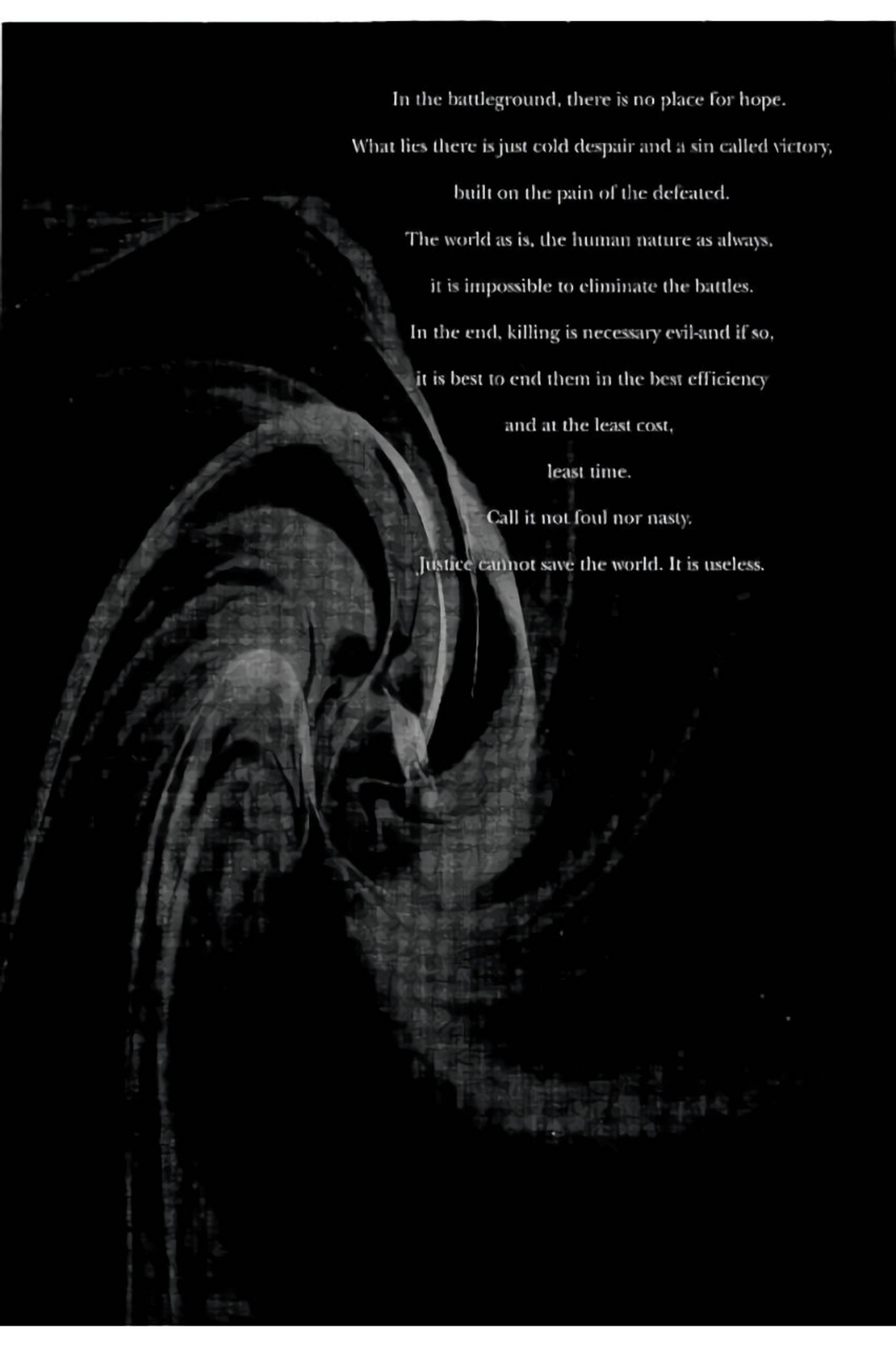
何も——

ない



Fate   
フレイト・ゼロ





In the battleground, there is no place for hope.  
What lies there is just cold despair and a sin called victory,  
built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,  
it is impossible to eliminate the battles.

In the end, killing is necessary evil-and if so,  
it is best to end them in the best efficiency  
and at the least cost,  
least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.



# 第 49 話

あの島で  
起きたことは  
何も珍しいこと  
じゃないんだよ

ああいう  
クソツタレな災禍は  
表沙汰にされないだけで  
世界中で日常茶飯事の  
ように繰り返されてる

魔術師の生きる  
世界ってのは  
そういうもんなのさ

私の仕事は  
結果だけを見れば  
そういう問題を  
起こしそうな輩の掃除  
——とも言えるかね







……なあ

ア  
ン  
タ  
の  
仕  
事  
に  
も  
僕  
に  
も  
手  
伝  
わ  
せ  
て  
よ



本  
気  
で  
言  
っ  
て  
ん  
の  
か  
い  
?

もちろん







結局のところ  
続く五年の歳月を切嗣は  
ナタリア・カミンスキーの  
許で過ごすこととなる







魔術刻印が  
疼くかい？

まあ  
耐えるしか  
ないね

坊やの父親の死体から  
移植したものは言え  
元は他人の一部だ

そう簡単には  
馴染まないよ



交渉はしたが  
移せた魔術刻印は  
ほんの二割ほどだ

後は協会に持って  
かれちまったが  
それでも取れた方さ


とはいえ  
魔術師として  
将来独り立ちする  
には充分だろう



私が腹括ったからには  
坊やにいつまでも  
タダ飯食わせる  
つもりはないからね


さっさと使い物に  
なってもらおうよ






あの日、その手で  
父を殺したことに  
本当の意味で価値を  
見出そうと思うなら

それは父と同じ  
魔術協会の  
管理を離れた  
異端の魔術師たち



即ち——  
「封印指定」を残らず  
狩り殺した果てに  
ようやく見出せる  
救済でしかなかった



「封印指定執行者」





そんな人ならさる  
修羅の生き様を  
少年は何の躊躇も  
なく決意した



条理の外の  
魔を狩る猟犬



切嗣は父のように  
魔術を生涯の目的と  
するのではなく

手段の一環とする  
形でナタリアから  
教えを受けた

暗殺術

さらには追跡術

多種多様な兵器の  
取扱いに至るまで

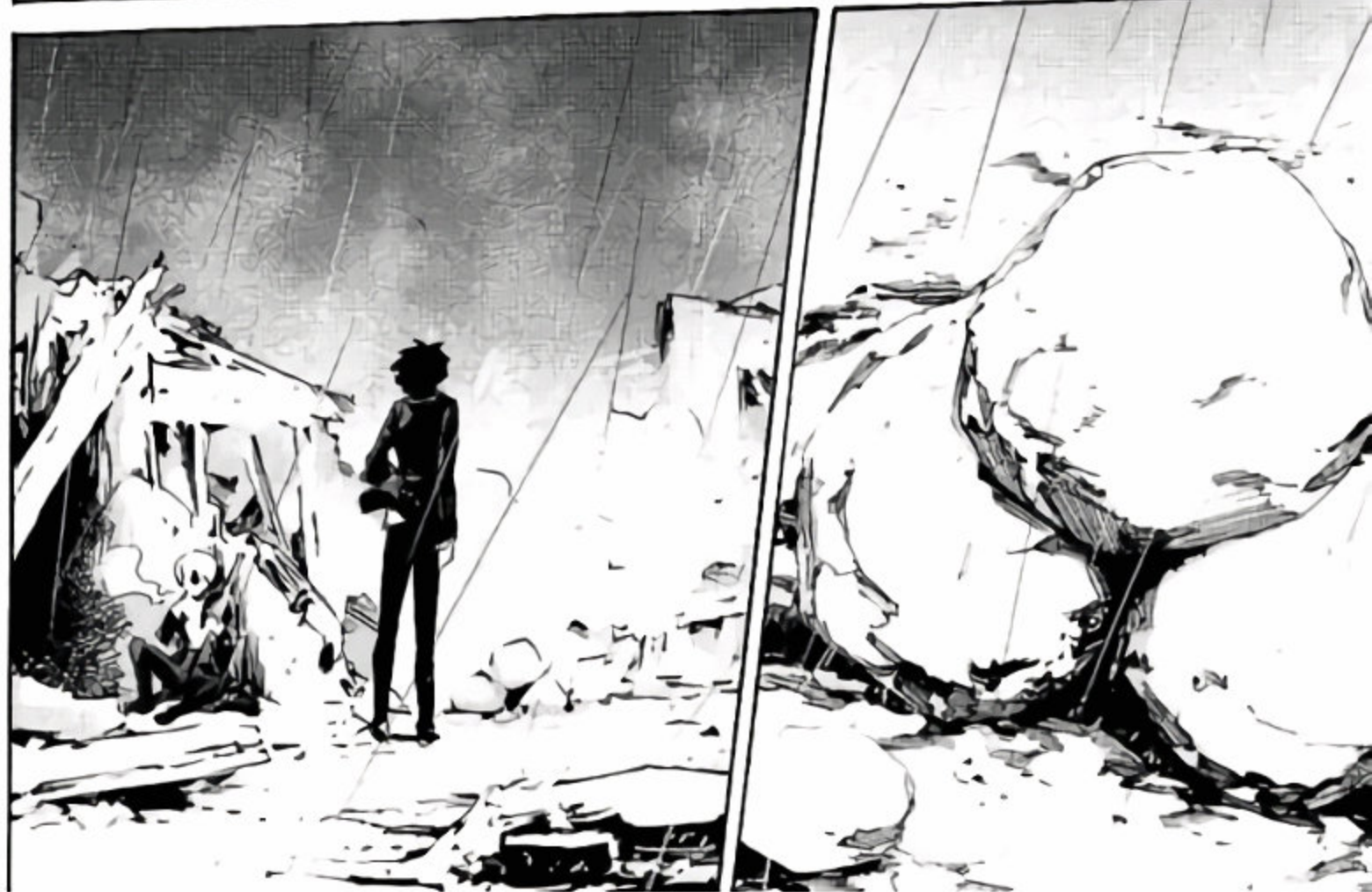


いいかい  
何があるうと  
手段を選ばず  
生き残るんだよ

同時に切嗣は  
人間がとれだけの  
歴史と知性を費やして  
「殺人」のテクノロジーを  
磨き上げてきたのか  
身をもって学び取った











血ちと硝煙しょうえんにまみれた歳月さいげつは  
飛とぶように過すぎた



オッド・  
ホルサーク？

「魔蜂使い」の  
異名を持つ  
魔術師さ


奴は限定的だが  
死徒化にも  
成功している

使い魔である蜂には  
刺した相手を  
屍食鬼化させる  
毒があるってんだから  
厄介な相手さ

こいつが  
今回の標的かい？

そうだ







奴は顔を変え名前を変え  
一般人に紛れて長らく  
消息不明だったんだが  
取引のためにパリから  
ニューヨークへ向かう  
という情報を得た

四日後の  
ニューヨーク行きの  
旅客機に搭乗する  
ってまではわかってる

私が奴と  
同じ便に搭乗して  
機内で狩りを仕掛ける



わかってる  
じゃないか



じゃあ僕は  
ニューヨークに先行して  
取引相手を洗い出せば  
良いんだね

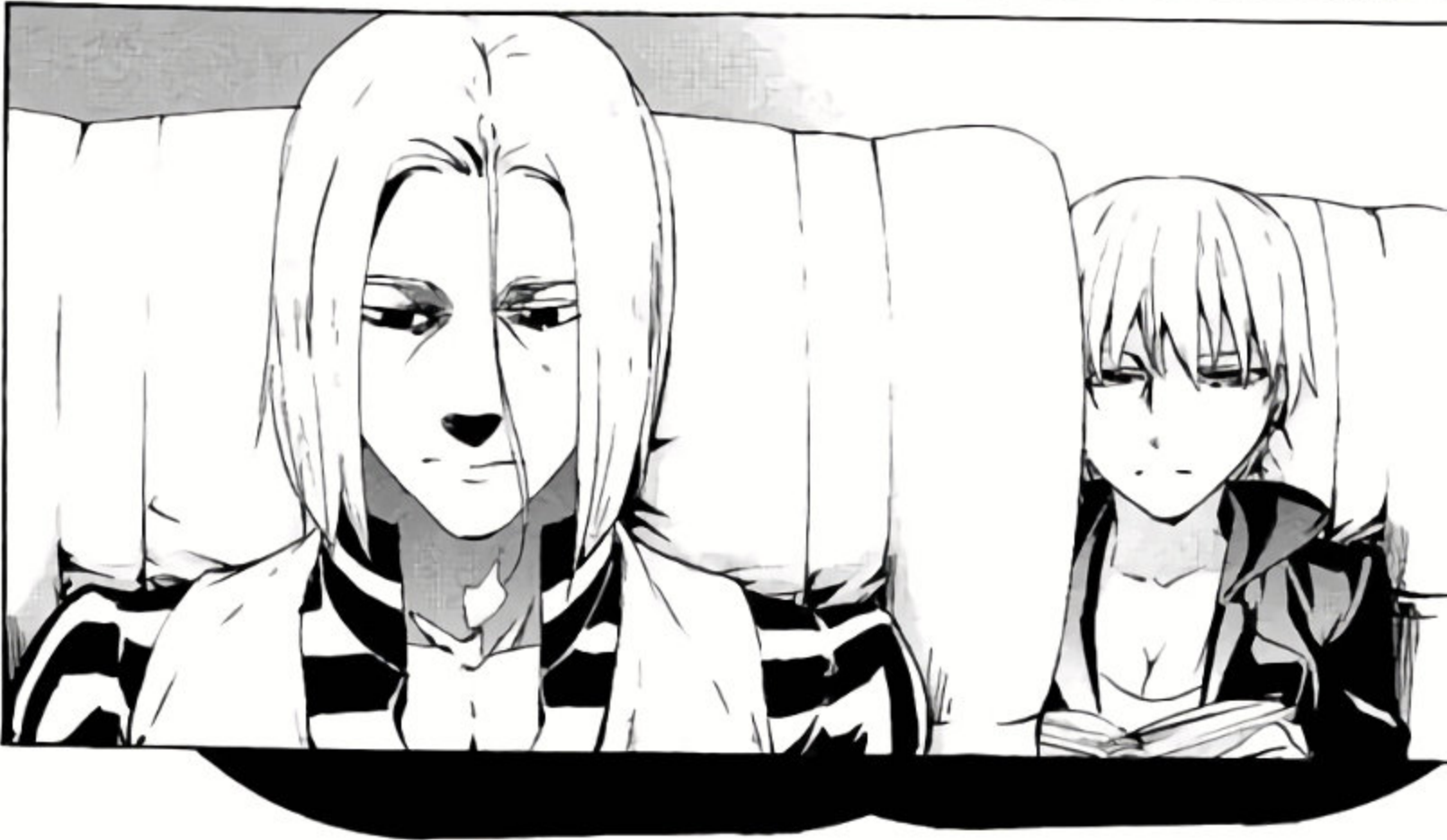
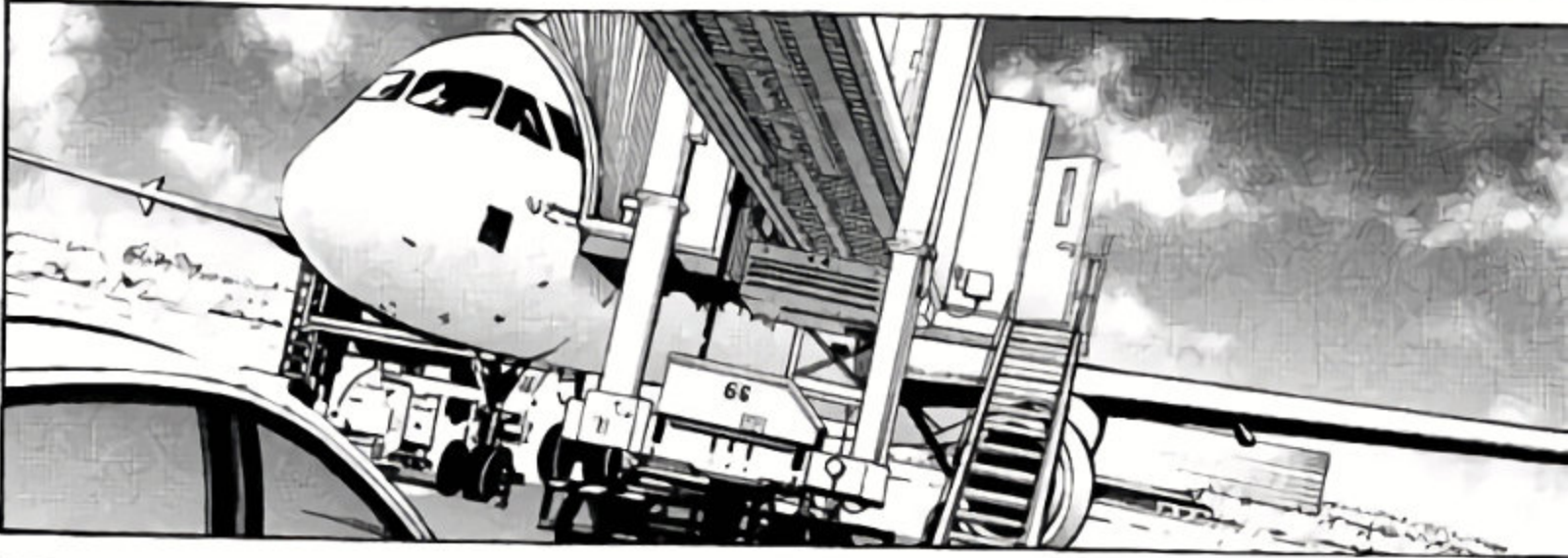




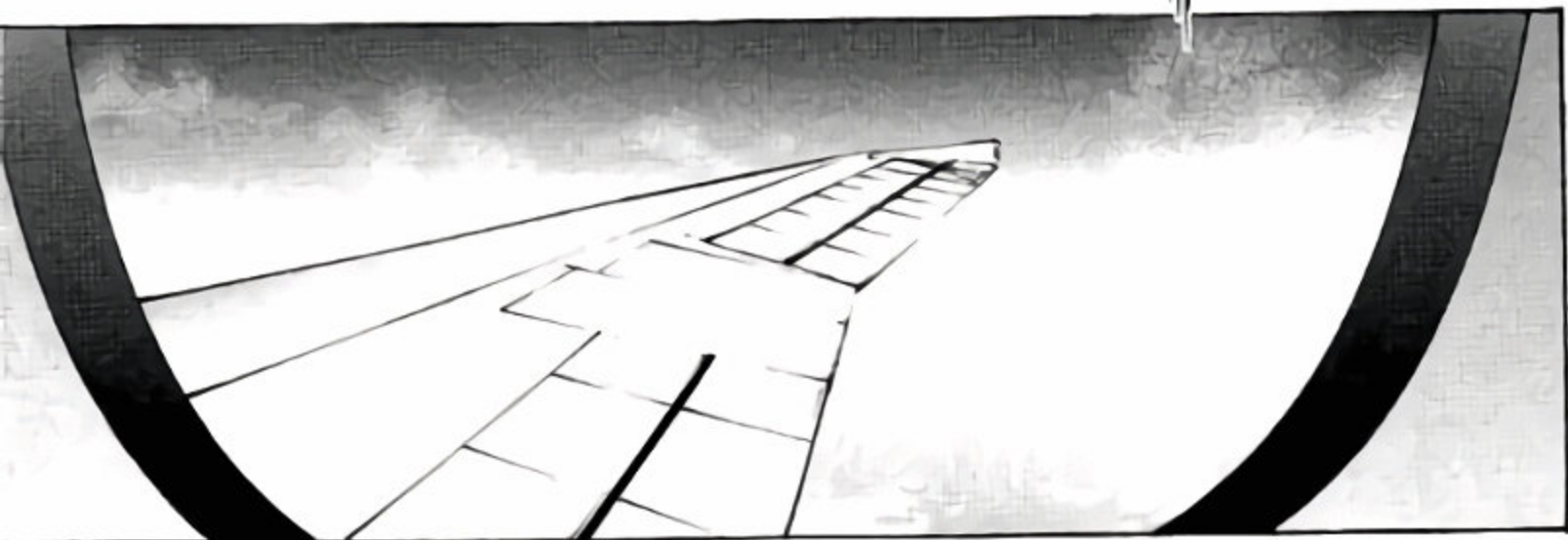




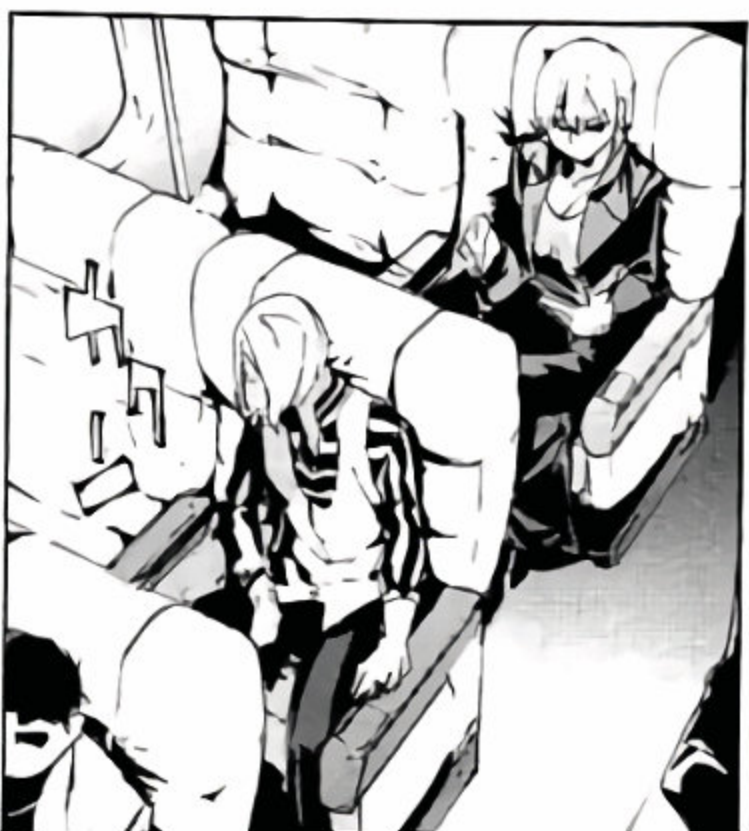
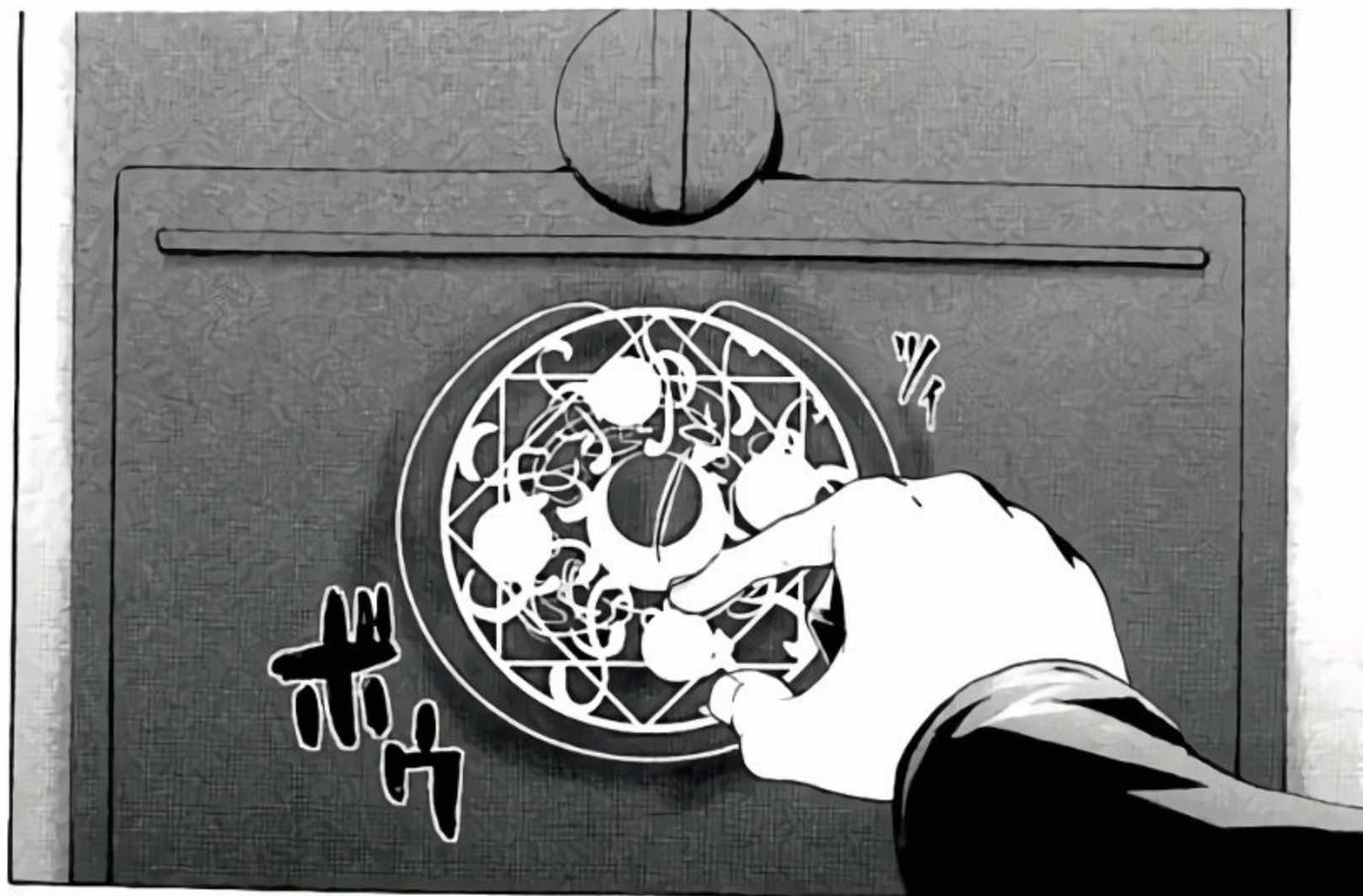




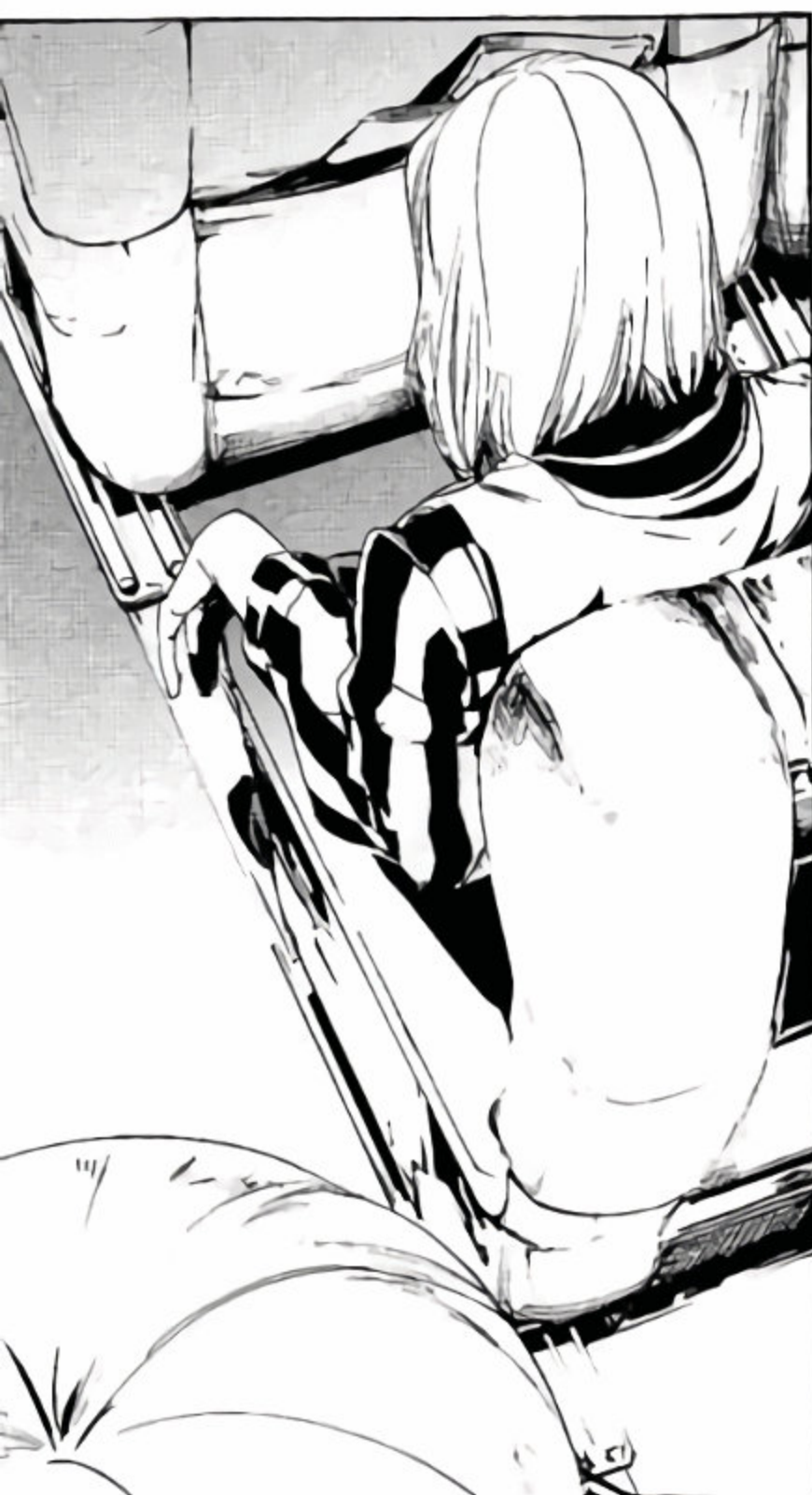
















狩りは案外  
あっさり済んだよ

あっけない  
もんだ

そうか  
良かった



TOILET

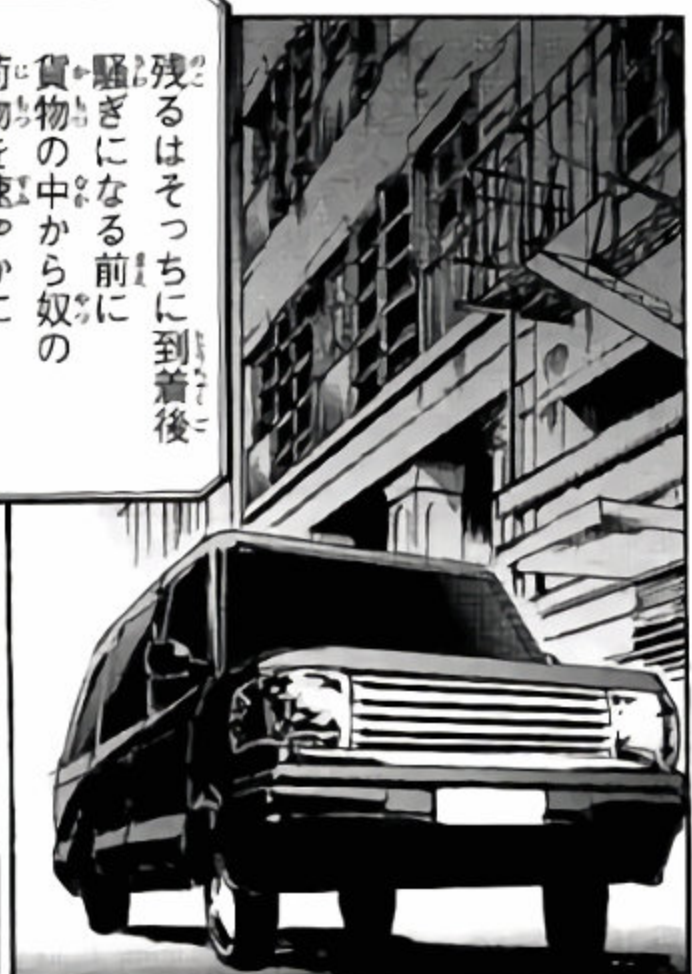
状況は？



残るはそつちに到着後  
騒ぎになる前に  
貨物の中から奴の  
荷物を速やかに  
回収するだけだが――

ならいい

大丈夫  
手筈は整ってるよ



ナタリア  
今のは？



客室の様子が  
おかしい……

おいおい  
嘘だろ……















なんてこいつた!!

席を立たなければ  
蜂に気付いた時点で  
対処できていた  
だらけだ……

なんて  
タイムミンクの  
悪さだよ!



キヤアア

こうなつち  
まったら  
どうしようも  
ない!

とウレ  
蜂なかが

ろな



グールが  
増える前に……

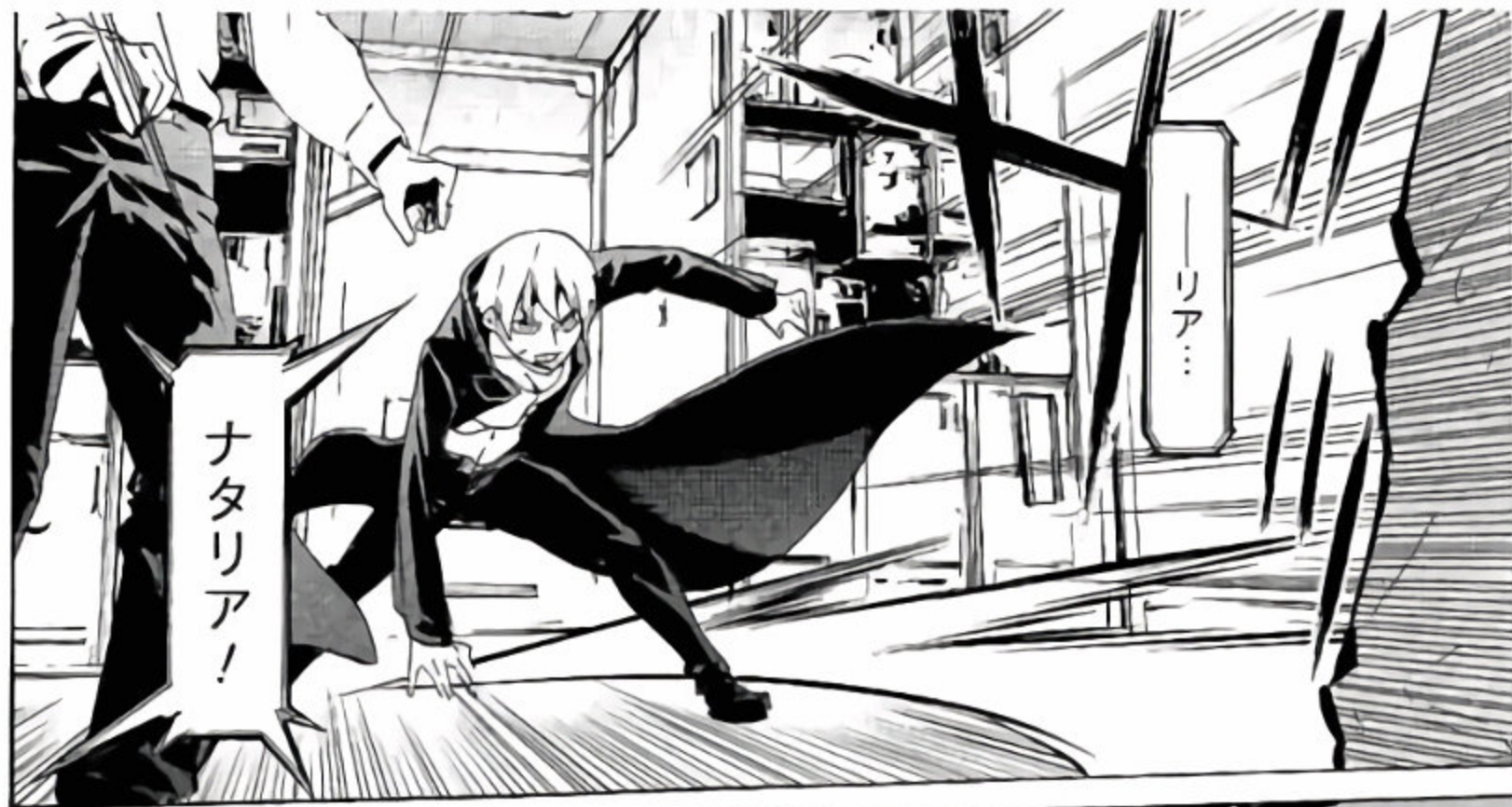




コックピット  
だけは死守  
しないと!!











……うん……？



機長  
わかりました

ちょっと様子を  
見てきてくれないか

客室の方が  
騒がしいな







馬鹿！

開けるんじゃないよ！！



誰かにドアを  
閉められました

CAからの連絡も  
ありませんし  
かなり混乱して  
いるようです

緊急事態を  
宣言すべきか…  
なんとか状況を  
把握せねば





1  
応答してくれ  
ナタリア



ナタリア

お願いだ



.....



おつかい坊や

何があるうと  
手段を選ばず  
生き残るんだよ









第 50 話







感度良好だよ  
ナタリア

お互い徹夜明けの  
辛い朝だね

昨夜の君が  
ベッドで安眠して  
たんだとしたら  
後で絞め殺して  
やりたいよ



……聞こえて  
るかい？ 坊や

……寝ちまっちゃ  
いないだろうね？



……さて

良いニュースと  
悪いニュース  
どっちから  
聞きたい？

良い報せから  
話すが  
お約束だろう？

オーケー

まず喜ばしい話  
としちやあ  
とりあえずまあ  
まだ生きてる

飛行機の  
方も無事だ

ついさつき  
コックピットを確保  
したばかりでね

機長も副操縦士も  
ご凶終つてのが  
泣けるところだが  
操縦だけなら  
私でもできる

セスナと同じ要領で  
何とかなるなら  
——の話だけどさ





……で  
悪い方は？



管制塔と  
連絡は？

つけたよ

初めは  
悪ふざけかと  
疑われたけどね

優しくエスコート  
してくれるとき




ん

結局  
咬まれずに  
済んだのは  
私だけだ



乗員乗客三〇〇人  
残らず屍食鬼に  
なっちまった





コックピットから  
扉一枚隔てた  
向こう側は既に  
空飛ぶ死都ってわけ

ぞっとしないねえ





……その  
有様であんた

……生きて還って  
こられるのか？



まあ扉は充分に  
頑丈だしね

今もガリガリ  
引っかかれてるけど  
ブチ破られる  
心配はないさ



こんなデカブツ  
本当にあしらい  
きれもんなんだか

むしろ  
着陸の方が  
不安でねえ





……あんななら  
やっつのけるさ  
きつと

クシヤツ

励ましてる  
つもりかい？

嬉しいこったね



空港まであと  
五〇分ちよつと

折って過ごすには  
長すぎるねえ

坊やしばらく  
話し相手に  
なっておくれ



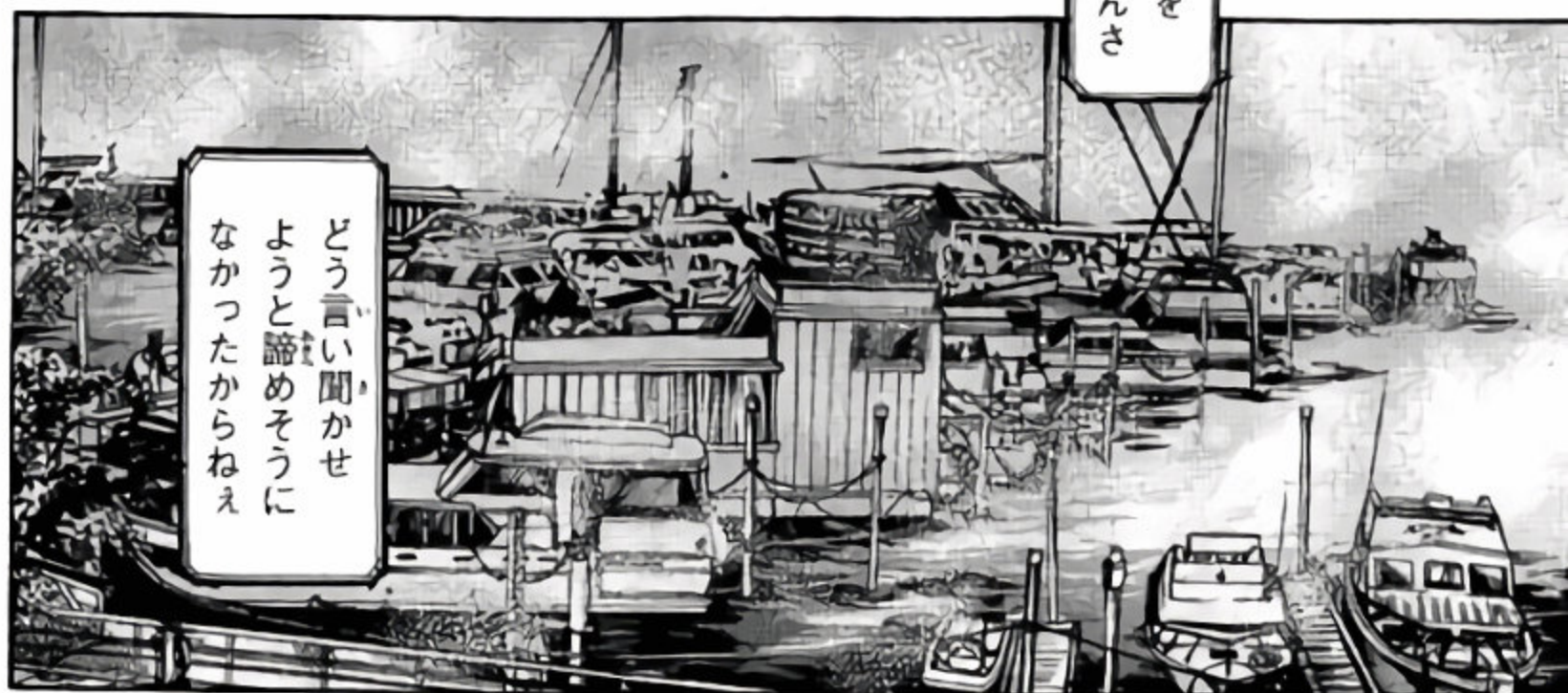
……構わないよ





坊やがこの稼業を  
手伝いたって言い  
出したときにはね

ほんと頭を  
痛めたもんさ



どう言い聞かせ  
ようと諦めそうに  
なかつたからねえ



いや違う

そんなに僕は  
見込みのない弟子  
だったのか？

……見込みが  
ありすぎたんだよ

度を過ぎてね



……どういう意味だい？

指先を心と切り離したまま動かすって  
いうのはね

大概の殺し屋が  
数年がかりで身につける覚悟なんだ

坊やはソレを最初から持ち合わせた

とんでもない資質だよ

でもね素質に沿った生業を選ぶってのが必ずしも幸せなことだとは限らない

才能ってやつはね

ある一線を越えると  
そいつの意思や感情  
なんぞお構いなしに  
人生の道筋を  
決めちゃう

人間そうになったら  
オシマイなんだよ

心









坊やの場合  
そのチャンス  
奪っちゃったのは  
この私が原因  
みたいなものだ

まあなにせよ  
私に教えられる  
生き方なんて他には  
なかったからねえ

まあ何て  
いうか……

引け目を  
感じないでも  
なかったん  
だろうさ



……あなたは  
僕の父親の  
つもりで？

男女を  
間違えるなよ  
失礼なヤツめ

せめて母親と  
言い直せ



……  
そうだね

ごめん



……長い間  
ずっと一人で  
血<sup>ち</sup>腥<sup>に</sup>い毎日<sup>まいにち</sup>を  
過<sup>す</sup>ごしてた

自分が独<sup>ひとり</sup>りぼっち  
だつてことさえ  
忘<sup>わす</sup>れちまう程<sup>ほど</sup>にね

だから  
まあ……

家族<sup>かぞく</sup>

みたいなのと  
一緒<sup>いっしょ</sup>ってのは

フン

それなりに  
面白<sup>おもしろ</sup>可笑<sup>か</sup>しい  
モン<sup>もの</sup>だったよ



僕も……

僕も あんたのこと  
まるで母親みたい  
だって思ってた

一人じゃないのが  
嬉しかった

あのな……  
次に会うときに  
気恥ずかしくなる  
ようなことを  
そう続けざまに  
言うのはやめろ

ああもう  
調子が狂うねえ

あと二〇分か  
そこらで着陸  
だってのに

土壇場で思い出し笑い  
なんぞしてミスったら  
死ぬんだぞ 私は

……ごめんよ  
悪かった







万が一にも  
ナタリアが機の着陸を  
成功させてしまったら  
三〇〇体に及ぶ  
屍食鬼たちを空港に  
解き放つことになる

あの旅客機は  
決して着陸  
させてはならない



万が一？



ナタリアの死を  
諦観するだけなら  
まだわかる

むしろそれが惨劇の  
回避に繋がるのだと  
自分を慰めたとしても  
それはまだ正常な反応だ



僕は本当に  
人間なのか……？



だが僕は万に一つの  
奇跡に備えて彼女を  
確実に殺す算段を  
こうして淡々と  
進めている



何だって？

いや  
何でも  
ないよ

.....  
ひよつとすると  
私ももうヤキが  
回ったのかも  
知れないね

こんなドジを踏む  
羽目になったのも  
いつの間にか  
家族ゴツコで  
気が緩んでたせい  
かもな

だとすれば  
もう潮時だ  
引退するべき  
かねえ.....

仕事をやめたら  
あんたその後は  
どうするつもりだ？

失業したら  
——ハハ  
そうさねえ

今度こそ本当に  
母親ゴツコぐらい  
しかやることが  
なくなるなあ





あんたは——

あんたは僕の  
本当の家族だ

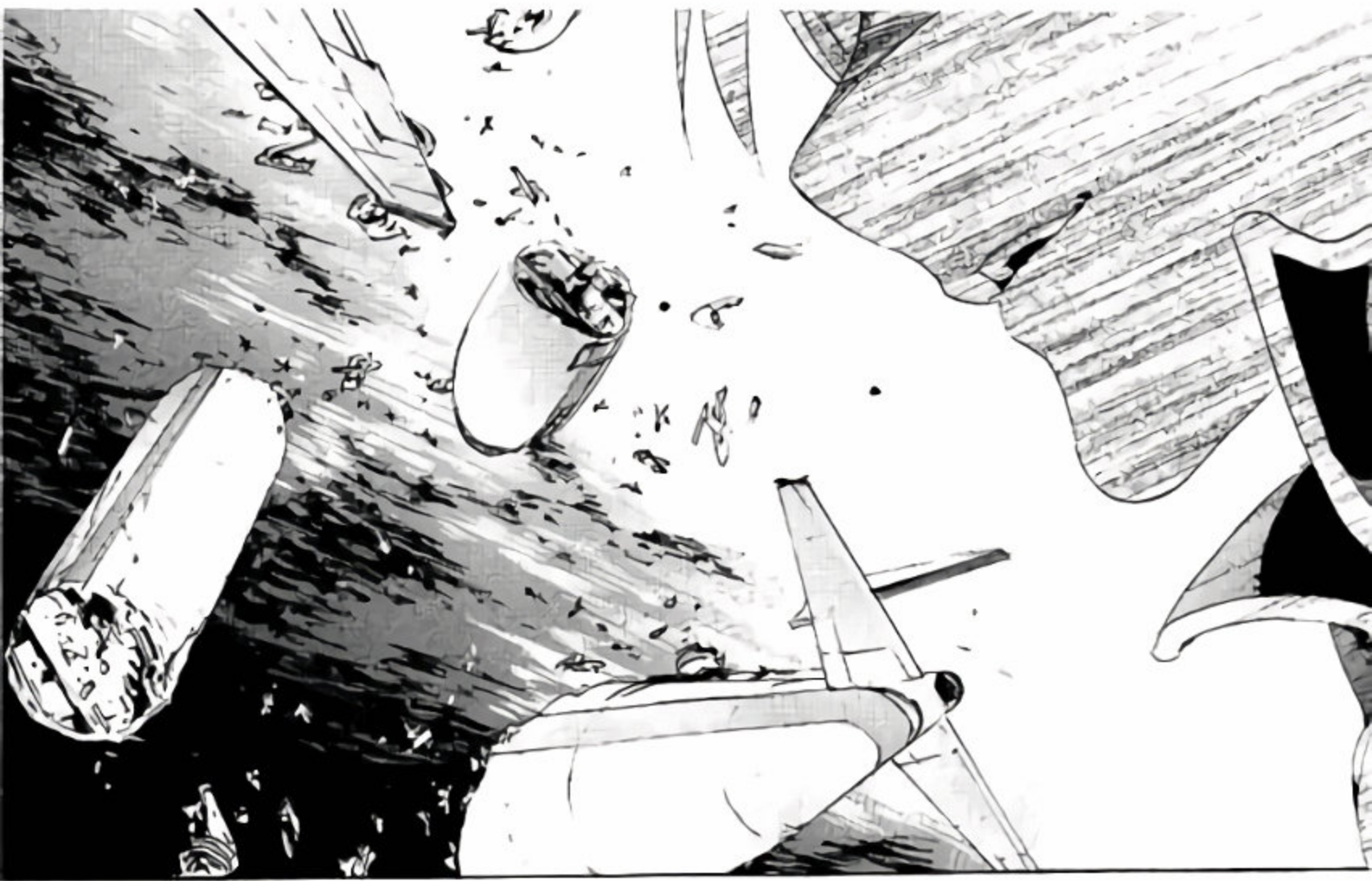
















見<sup>み</sup>ていて  
くれたかい？  
シャーレイ……

今<sup>こん</sup>度<sup>ど</sup>もちやんと  
殺<sup>ころ</sup>したよ



父<sup>ちち</sup>さんと  
同<sup>おな</sup>じように  
殺<sup>ころ</sup>したよ

キミのときみたいなの  
へまはしなかった





ほく おおせい ひと  
僕は 大勢の 人を  
すく 救ったよ……





ふさげるなッ!  
馬鹿野郎ッ!!

……ふさげるな……









ただもう一度  
ナタリアの顔が  
見だかつた

こんな結末を  
願ったわけ  
じゃない!

それでもこれで  
正しいんだ!!

死ぬしか他にない  
者が殺されて  
死ぬ理由のない  
人たちが救われた

これが  
「正義」でなくて  
何なんだ!

いつか面と向かつて  
「母さん」と呼べる  
日を待っていた

あああああ



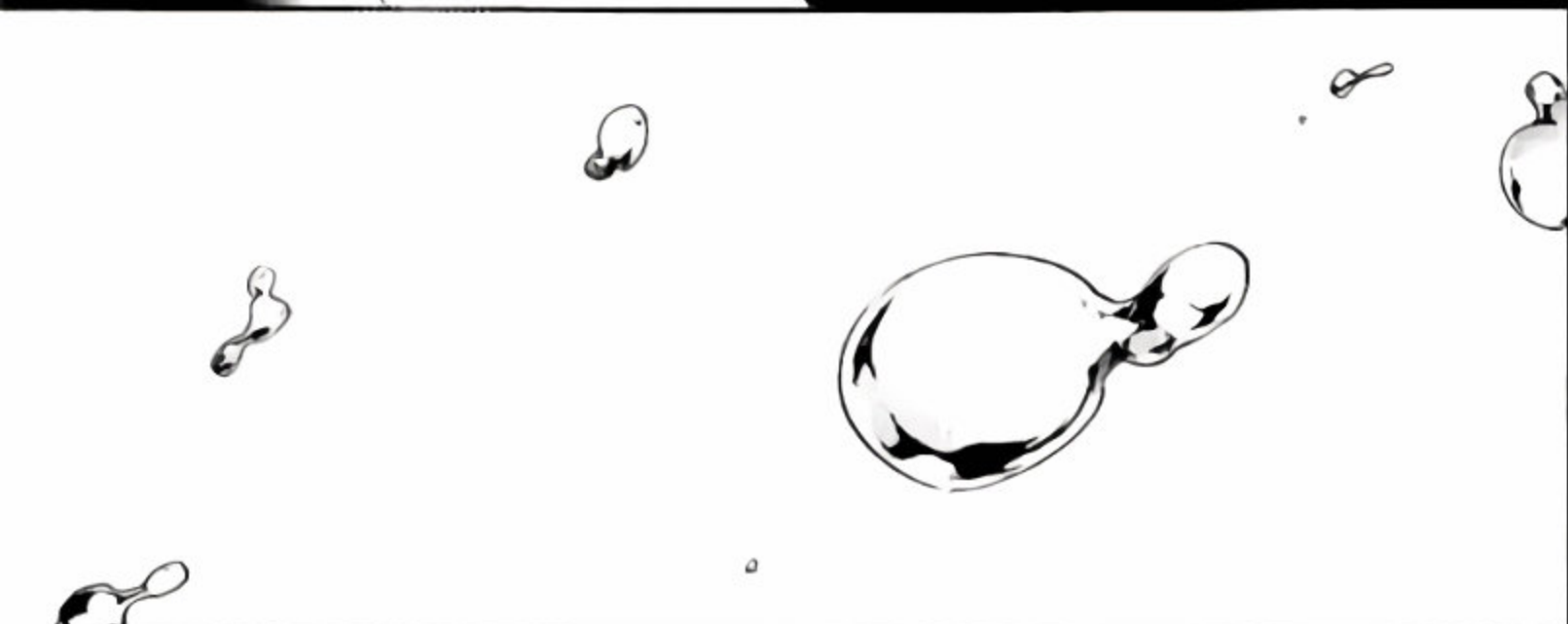




ケリイはさ


どんな大人になりたいの?  
どんな大人になりたいの?

もしも世界を変えられるなら  
奇跡がこの手に宿るなら——



僕は正義の味方になりたい





正義という名の  
天秤は男から父を奪った

母も同然だった  
人を奪った

彼らを懐かしみ  
偲ぶ権利さえ  
奪っていった

それが憧れ求めた  
理想の代価だった



男は理解する

いまさら止められる  
はずがない

立ち止まった  
その瞬間から  
追い求めたものは  
無になる

支払った代価も  
積み上げた犠牲も  
すべて無価値に  
崩れ去る




男はすべてが  
報われる日を祈り  
胸に宿る理想を  
過たず成し遂げていく

それを憎みながら

呪いながら……





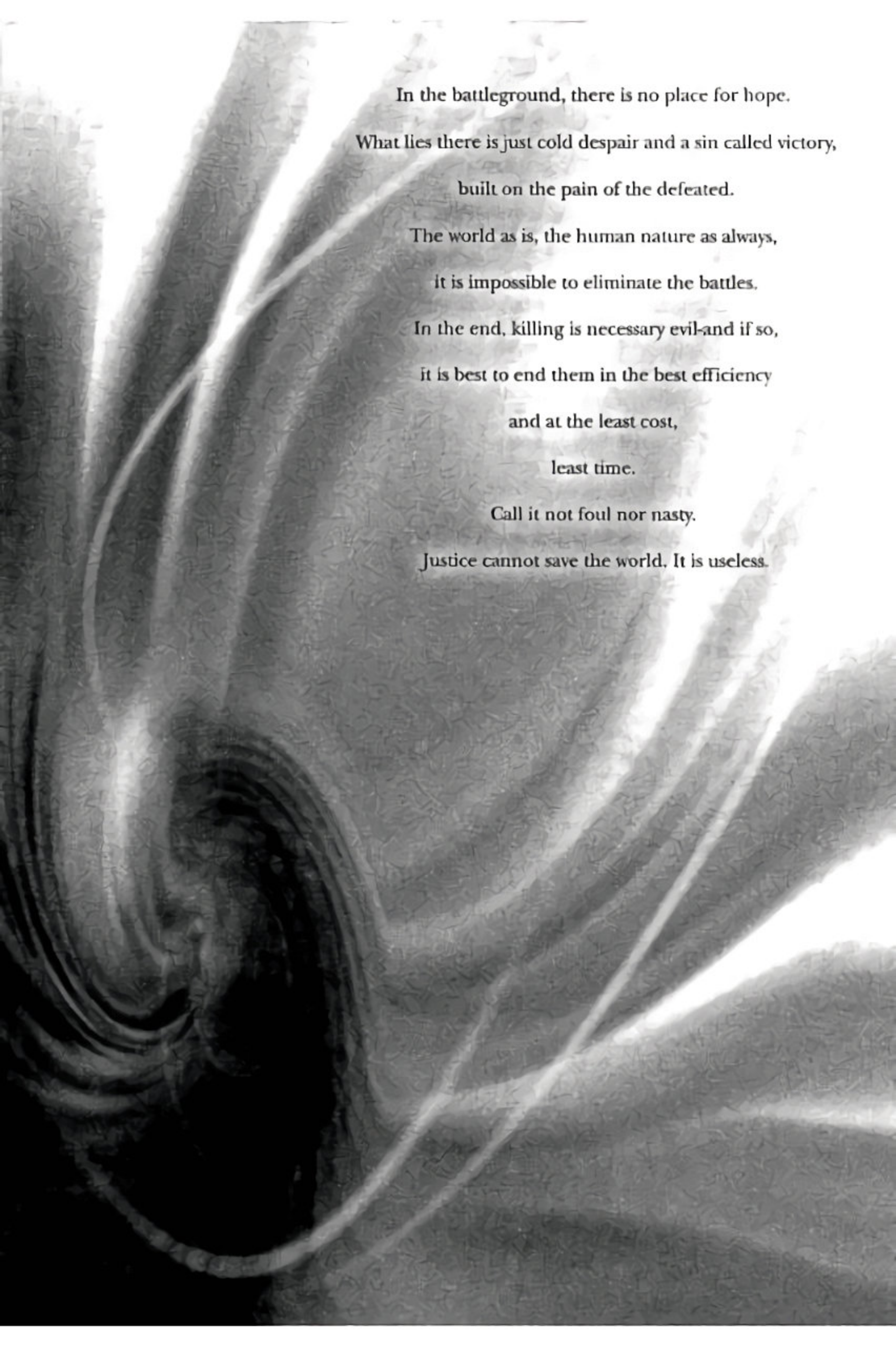
この手に担う残酷が  
ヒトの極みにあるならば――

この世全ての涙をかき集め  
拭い取ることも叶うはず



Fate *Zero*  
フェイト/ゼロ





In the battleground, there is no place for hope.  
What lies there is just cold despair and a sin called victory,  
built on the pain of the defeated.

The world as is, the human nature as always,  
it is impossible to eliminate the battles.

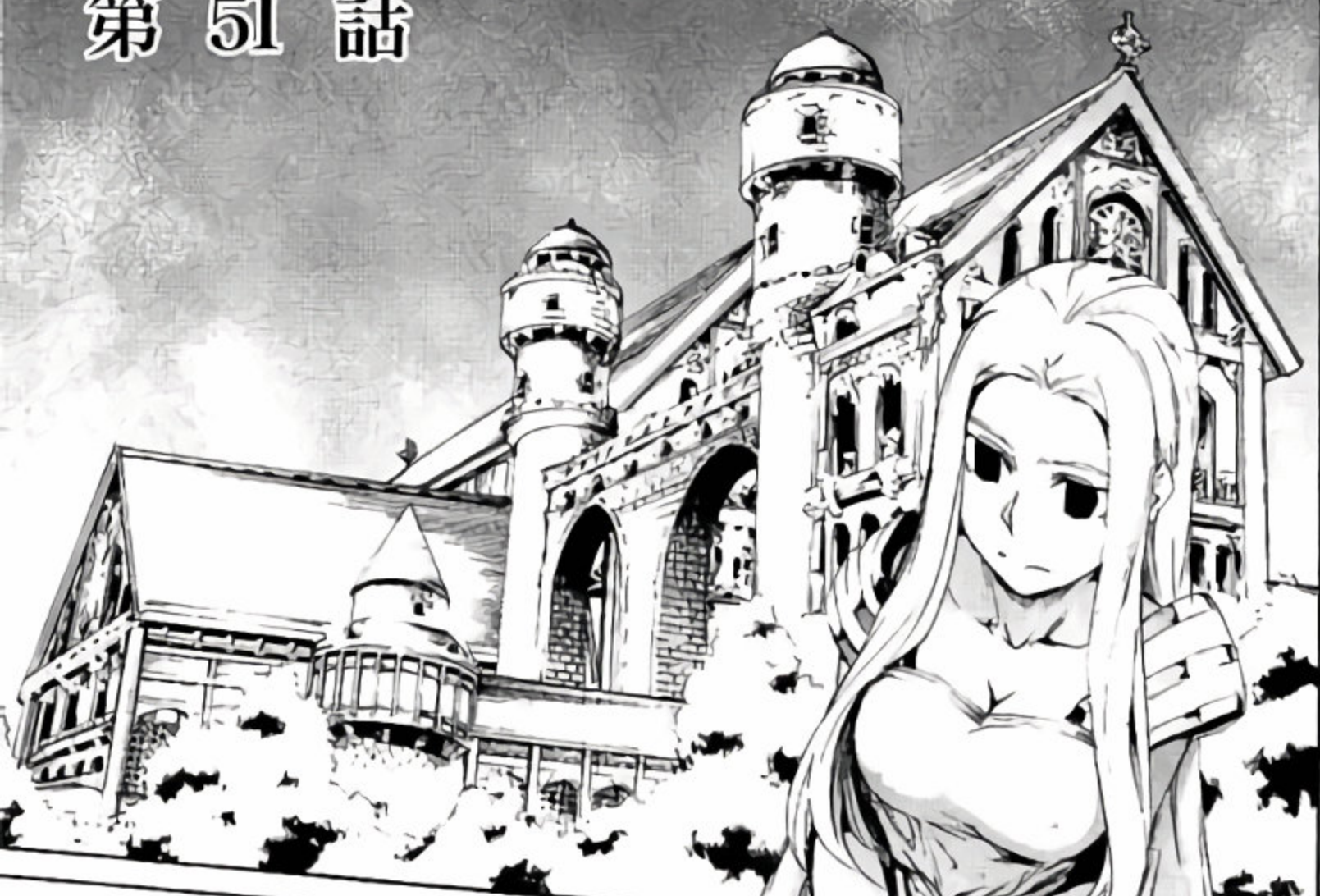
In the end, killing is necessary evil-and if so,  
it is best to end them in the best efficiency  
and at the least cost,  
least time.

Call it not foul nor nasty.

Justice cannot save the world. It is useless.



# 第 51 話



おい 僕の言葉は  
理解できるか？

まったく  
やり辛い

ただの容器なら  
それ相応の形が  
あろうものだが…

これが大聖杯の器……







貴方はアインツベルンの  
ホームクルスについて  
随分過小評価を  
なされているようですね

私は人体として  
備わっているべき  
全ての機能

常人をはるかに  
凌駕する魔術回路

初期世代として  
規格化された  
略式魔術刻印が  
焼き込まれています



はい  
衛宮切嗣

驚いた  
声も出せるのか



君は自分が一体  
どういう目的で錬成  
されたのかちゃんと  
理解しているのか？

はい  
私は聖杯の器

来たるべき  
第四次聖杯戦争に  
おいて大聖杯を  
起動させる鍵として  
機能する存在です



魔術師の素体としては  
貴方を上回る性能を  
備えているはずですよ

ああ  
大変に結構

だがそんな御大層な  
機能は僕にとって  
ありがたくも  
なんともない



そうだ  
ただの器だ

意味が分からない

何でそいつが  
手足を生やし  
いっぱしの口を  
きいてる？

では意味を  
ご説明します

聖杯の器を保護する上で  
最も効率的な手段として  
自立行動と状況判断の  
機能を果たすべく  
付加された自我――

それが私  
という存在です

……では聞くが  
君は本当に戦場で自衛  
できるだけの能力を  
備えているのか？

そのように設計  
されています

良いだろう

では実際に  
試してみる  
までのことだ







ぐっ……！



対処の必要が  
ありません

貴方は衛宮切嗣であり  
聖杯の器を破壊する  
意図などあるはずがない



おいふざけて  
いるのか？

この程度の  
攻撃にも  
対処できないで  
どうする？









あれでは街角の  
酔っ払いに  
絡まれただけでも  
怪我しかねない



不服かね？

あれは近年の鑄造の  
中で屈指の仕上がり  
の個体なのだ



せめて鳥か  
ドーベルマンの身体  
でも与えておけば  
まだしも使い道が  
あったでしょうに

フンさすがは  
魔術師殺しの  
衛宮切嗣だな

発想の野蛮さに  
おいては私たちの  
理解を超えて  
余りあるな

だから僕を  
ここに呼び寄せ  
たんでしょう？



アレについては  
その頑強さについて  
証明すればまずは  
十分であろう

アレは自らが  
壊れることを  
忌避するよう  
設計してある  
その機能性を  
お前に直に  
見せてやろう

そうさな  
後二三日もすれば  
結果は出るだろう

どういう  
ことですか？

ちよつとした  
実験――

耐久試験とでも  
言っておこうか

夕べの内に  
森のはずれにある  
失敗作の廃棄場に  
アレを放置した

なっ……

この極寒の吹雪の中  
丸裸にされ飢えた狼や  
怨霊どもに囲まれれば  
屈強な戦士も一夜の内に  
喰い殺されるか凍え死ぬ  
であろうか――

アレが独力で  
この城に生還  
したならお前とて  
文句はあるまい

正気の沙汰  
じゃない！

いくら  
ホームクルス  
とはいえアンタが  
手ずから作った  
娘だろうが！



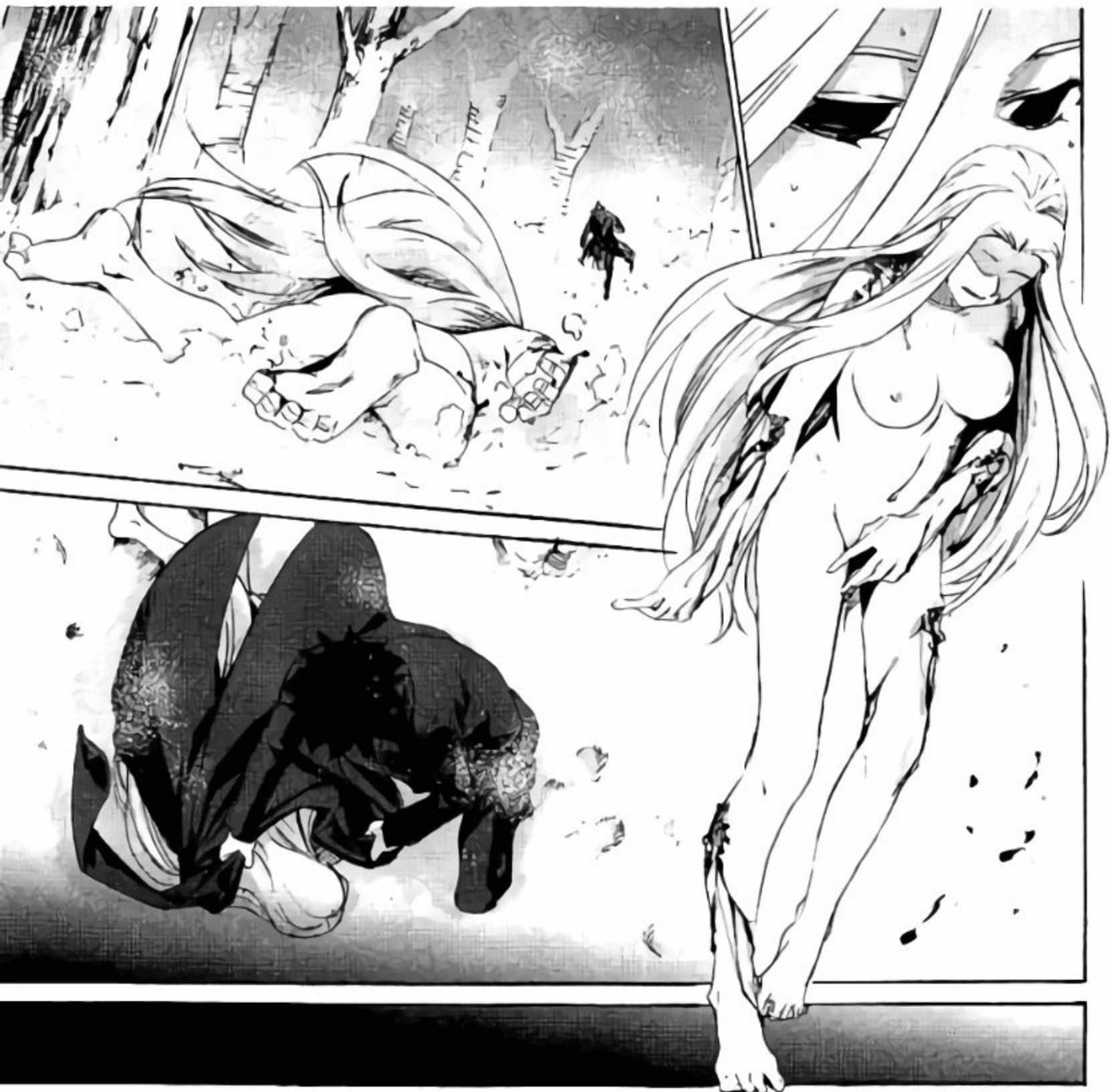


壊れないこと  
大聖杯の儀式に  
至るまで自らを  
保存しうることを

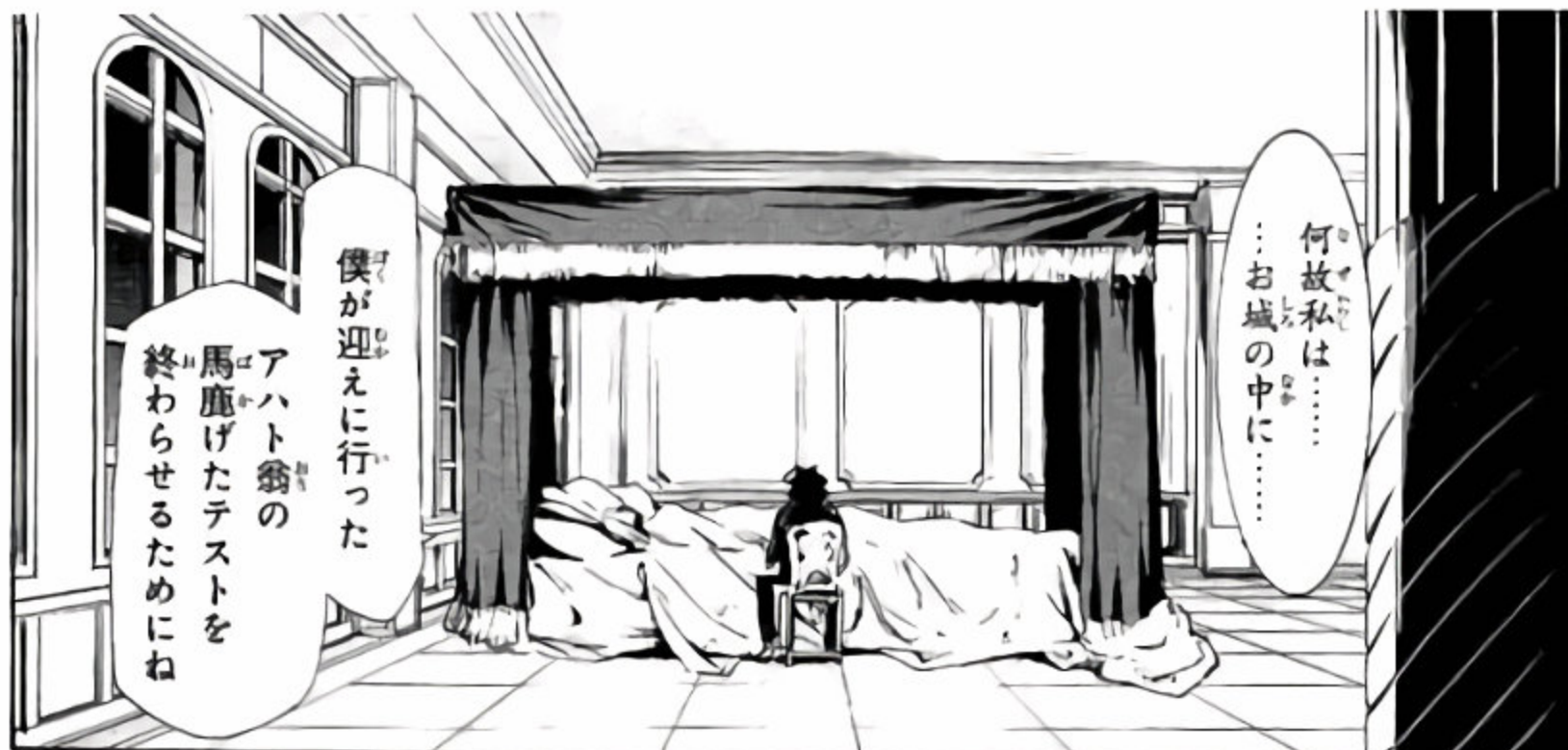
私がアレに  
託したものは  
それだけだ











何故私は……  
……お城の中に……

僕が迎えに行った

アハト翁の  
馬鹿げたテストを  
終わらせるためにね



ふざけるな

こんなポロポロに  
されてまだ虚勢を  
張るのか？

それが君の言う  
強靭さなのか？



いけません  
私はまだ試験を  
達成していない

私の耐久性を  
貴方に証明  
していません



強さとは苦痛に  
耐えられるか  
どうかじゃない

苦痛に対する怒り  
苦痛をもたらす者に  
牙を剥く意思が  
なければ戦いに勝つ  
ことはできない



君は間違っている



その通りです  
私の使命は  
生き延びること

肉体の損壊は  
許容範囲にある限り  
問題とはなりません



君はあの  
当主に怒りを  
感じないのか？

アイツは僕から  
受けた屈辱を  
すすぐためだけに  
君をこんなにも傷つけた

……ああ  
そもそも君の  
ことを侮った  
僕にも責任がある

君の苦痛よりも  
君の設計者としての  
プライドを重く見た

何故ですか？  
大お爺様には  
何の落ち度も  
ありません

だから君は  
僕とアハトに  
対して怒りを  
抱くべきなんだ

どちらも君を  
傷つけることに  
なった元凶  
なんだから

現状の破損状況に  
おいて私の肉体は  
聖杯の器として  
機能を十全に  
果たせませす

よって私の苦痛より  
大お爺様の名誉と  
貴方の誤解を  
解消することの方が  
優先事項です

違う……  
違うんだ！

君は強くなるために  
闘争という行いの  
根幹にある「怒り」  
という感情を身に  
付けなくてはならない

君はどんな形であれ  
君自身が損なわれる  
ことについて抵抗  
しなくてはならない

仰る意味を  
理解  
しかねます



君は自分の価値  
存在意義について  
あくまで理屈の上では  
理解しているようだが

この世に生まれ  
落ちたこと  
自分に課された  
使命について  
喜び、誇り  
を感じるか？

今回蔑ろに  
されたのは  
君のそういう  
部分について  
なんだよ

君が君自身を保護  
することを使命だと  
思っているのなら  
もっと強くなりたい  
だろう？

戦いに勝つための  
戦略をより幅広く  
用意しておきたいと  
思うだろう？

はい

もし可能で  
あるならば  
それはとても  
有益な学習です

それならばまず  
君は君自身について  
関心を持って

君の人生と  
その舞台となる  
世界に喜びを探せ

そしてそれを  
損なう出来事を  
決して許しては  
ならない

そうすれば君は  
怒りという感情を  
手に入れられるはずだ





喜び……

関心……

根拠のない  
感情を抱く  
ことは困難です



まったく……  
こんなところから  
面倒見なきや  
ならないなんて……

わかった  
僕が教えてやる  
まずは君の――

君には名前  
はないのか？

器とかじゃなく  
君固有の呼び名は

私はアイリスフィール・  
フォン・アインツベルン  
と申します



その後例の  
ホームクルスは  
どうですか？



日に日に  
見違えるほど  
変わっていく

もともと学習意欲が  
旺盛な性格付けが  
なされていたんだろうな

与えた事柄は  
どんなものでも  
貪欲に吸収し

その分  
情緒についても  
豊かになっていく

だが……  
こんな教育が  
果たして意味を  
持つのか……

舞弥 お前は以前  
自分のことを  
機械として  
自覚していると  
そう言ったな？

はい  
それが何か？





そういう心づもりで  
何故戦場で自分を  
強く保てるのか  
不思議に  
思えてきたんだ

貴方らしくない  
疑問ですね

戦場でどのような  
心を支えるか—  
貴方にとっては  
自明すぎる理だと  
思っていましたか

彼女を訓練している  
内に僕もいろいろと  
混乱してきたようだ

自我を鍛えることで  
闘争本能を植え付ける  
ことができれば  
戦闘にも適応できる  
かと思いはしたが……

そもそも僕は  
前提からして  
間違っていたん  
じゃないのか

人と機械と……  
果たしてどちらが  
戦場では優秀  
なのだろうか？

機械は人間より  
頑強ですが  
機械であるが  
ゆえに限界がある

一方で人間は脆弱ですが  
限界を超越した  
殺戮の達人——英雄が  
現れることもあります

そういった  
例外は度外視して  
いいでしょう

大多数の兵士にとって  
まずは生き延びるため  
だけに弱点を克服する  
ことが最優先です

だから人は戦場において  
心を捨てて機械になる  
私もそういった  
凡人の一人です

やはり僕は  
とんでもなく無駄な  
回り道をして  
いるんだろうか





切嗣 あなたは鉄を  
必要としているところに  
金槌を与えられた  
ようなものです

これでは  
役に立たないと  
鋳溶かして鉄にまで  
戻しているのが  
現状です

改めて刃物として  
使いたいのなら  
今度はそれを  
研ぎ直す工程が  
必要になる

そういう  
ことかと



ねえ切嗣  
今日は一体  
どんなものを  
見せてくれるの  
ですか？



映画？

写真？

それとも  
音楽？

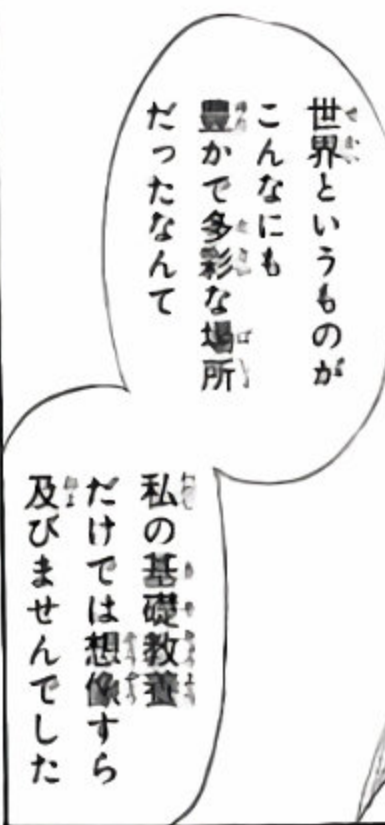
楽しそうだね  
アイリスフィール





あでも  
ご心配なく

私の興味はあくまで  
二次的なものであり  
本懐を見失っている  
わけではありません



ええ

あなたが与えてくれる  
知識は聖杯戦争と  
関わりないものばかり  
だけど大変に驚か  
されるものばかりです

世界というものが  
こんなにも  
豊かで多彩な場所  
だったなんて

私の基礎教養  
だけでは想像すら  
及びませんでした



君が望むなら  
運命に背を  
向けることも  
できるんだ



え？



君が人間に憧れ  
残りの寿命をただ  
平穩に過ごしたい  
と望むなら——  
逃げ出せばいい

アハト翁も誰も  
追いはしない

道具には道具程度の  
期待しか  
課せられないものだ

君の自我と  
比べればそんなもの  
取るに足らない

だから聖杯の器に  
自我を与える  
べきではないんだ



道具は自らの  
意思で戦えない

意思を  
備えたものは  
道具ではない

だから君は  
今日まで学んできた  
事柄を鑑みたくて  
改めて自らに  
問うべきなんだ

そして道具で  
なくなつた者は  
まず自らの意思で  
戦うかどうかを問う  
ところから始め  
なければならぬ

君に課せられた  
使命とは本当に  
血を流して戦うに  
値するものなのか  
どうか

すべてを失えと  
言うのですか？  
私に

そうだ

今ある全てを  
捨て去ることで  
君は一から  
やり直すこと  
だってできる

君がそれを  
望むなら

……ああ……

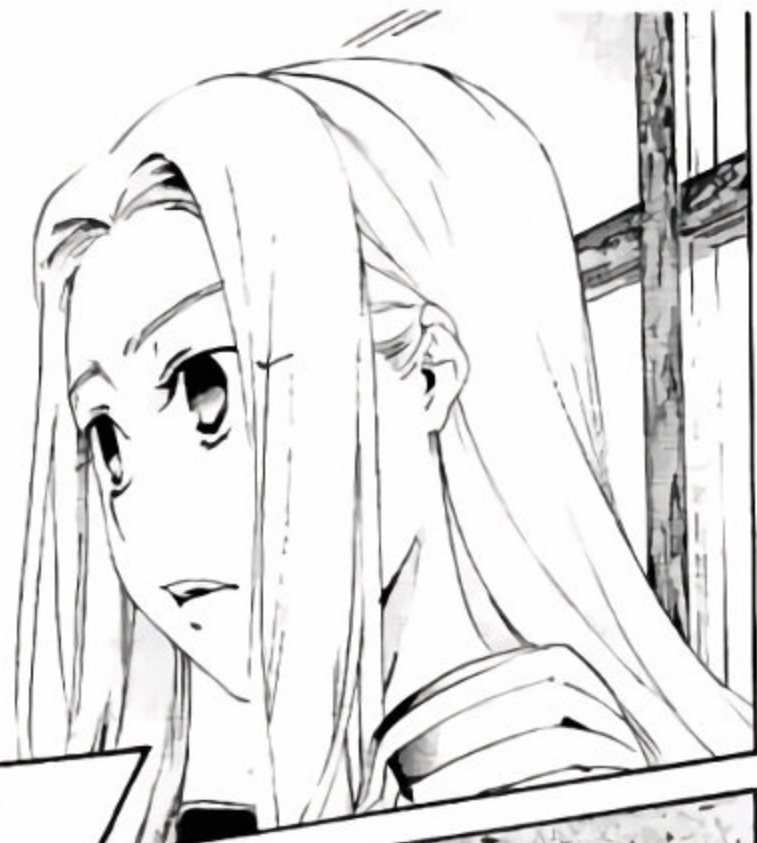
……なるほど

理解しました

貴方が私を  
教育しようとした  
意図が今ならば  
わかります

何？





今日まで貴方が私に見せてくれた知識世界の在り方人の生き方

これらは全て貴方が背を向けて拒んだ諸々だったのですね？



それは……

かつて貴方も幸ある人生よりも使命の重さを取って血を流すに値する戦いを選んだのですか？

だとしたら――

そんな風に価値の在り処を見定め貴方の正義に確信があるなら今こうして私に選ばせたりしないはず



貴方には選択の余地がなかったのですか？

……



衛宮切嗣

貴方の方こそ一つの機能のみを設定された機械のように生きてきたのではないですか？

……不思議ですね

人間の貴方が機械のように振る舞い人形である私に より人間じみた選択をさせる

君は戦場に持ち込む道具としては欠陥がある

そのままでは不都合だから調整している

それだけのことだ

なるほど

私が自分の役目にとただ従うのではなく思考する主体として戦いに臨む初期衝動を獲得すべきだと

そのために私に怒りや喜びやプライドを見出せというのですね？

まだ培養層から出て数ヶ月の命だというのに随分と井が立つんだな

ユステイーツアの設計を継承する私の思考分析力を甘く見てもらっては困ります

貴方が用意してくれた学習教材からも既に私は貴方とは違う見解を導き出しています

何だと？



怒りの感情こそが  
戦う意思の源であり  
その礎であるのは  
尊厳であると  
貴方は言った

しかし私が  
分析したところ  
怒りとはより単純で  
包括的な衝動に  
端を発しています

それは愛です

——ッ！





人は自らに  
仇なす者に  
対してだけ  
怒るのではない

貴方が語る尊敬  
という概念も  
つまりは自己に  
対する愛

家族のため  
同胞のため  
祖国のために

猛々しく血を  
流してきた人々の  
記録を私は幾つも  
確認してきました

野の獣ですら  
子を守るためには  
牙を剥いて戦いに  
臨むのです

私は怒りの感情を  
獲得する前にまず  
愛について学習  
しなくてはなりません



私は自らの  
構造と機能を把握  
しているがゆえに  
私自身に対して  
新たに興味や関心を  
抱くことはできません

しかし愛情を  
抱くべき対象は  
何も私自身に限定  
する必要はない

例えば――



衛宮切嗣  
えみやきりつぐ









貴方にご迷惑は  
かけません

あくまで私の  
心の持ちようの  
話です



ホギよとん



男女の愛情  
というのは  
そんな生易しい話  
じゃないんだ!

……まったく……  
こんなところから  
説明しなきゃ  
ならないなんて……

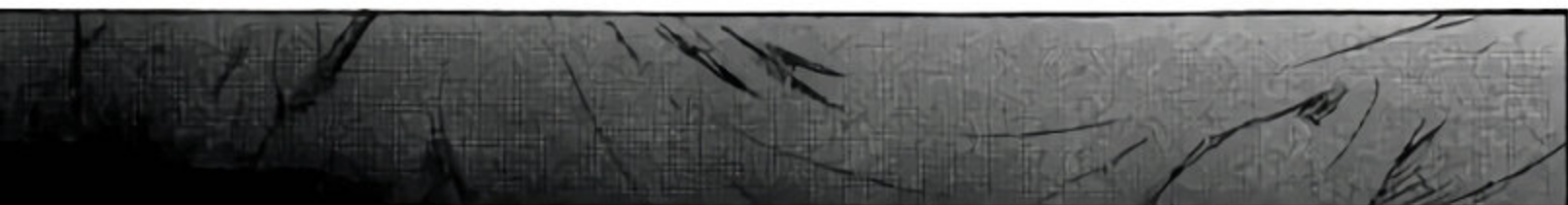
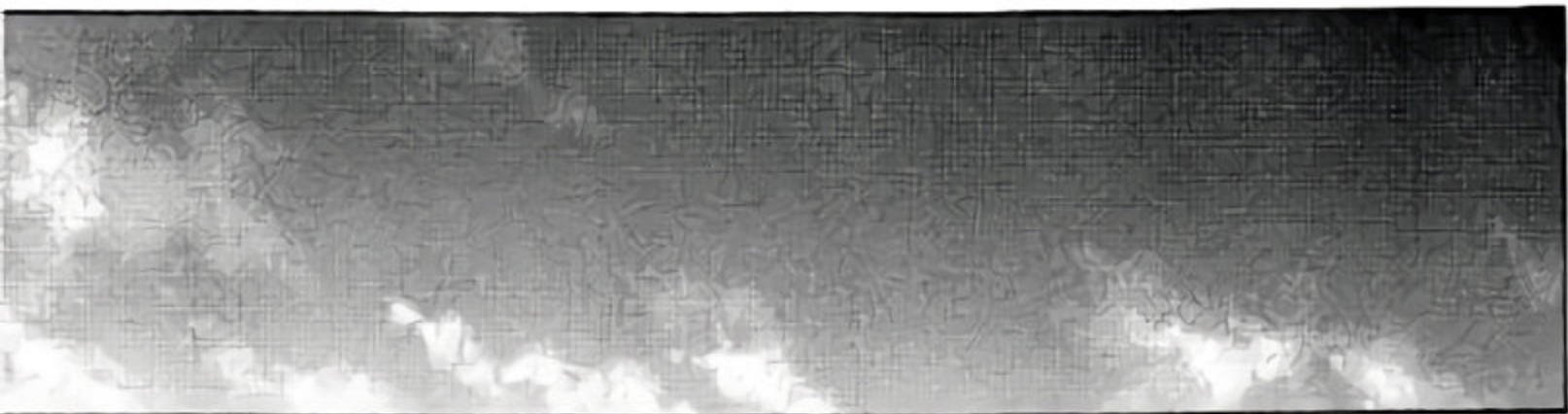


……わかった  
とりあえずは  
教えてやる

自分がどれだけ  
見当違いなことを  
言っていたのか  
君はすぐにも  
思い知ること  
なるだろう

興味深いわ  
とても期待  
しています













切嗣……



それがどれほど残酷なことか少し考えれば気付けたはずなのに……



「君を生かす」という選択は今日まで僕が犠牲にしてきたものこの手で生贄としてきた命を何もかも無意味にする

僕は君を死なせることでしかこれまで積み上げてきた負債を清算できない

そんな僕に君を愛する資格などあるものか!



滅びるものを愛することが何故いけないの?

切嗣 貴方にしても聖杯戦争の後につなぐ人生を想定しているようには見えません

貴方もまた燃え尽きて果てる心づもりなのでしょう?

そんな貴方に對しても今私は確かに愛情を抱いています

私たち二人にあと九年という期限が定められているだけのこと

その中で愛を語ることに何か不都合がありますか?





救いがない

希望がない

僕たちは互いに  
未来がない

未来？



愛情とはね  
相手に救済と  
希望を願う祈りを  
託すことなんだ

君を救えない僕も  
希望を持たない君も  
愛し合うことなど  
不可能な生き物なんだ

現に君は結局  
未だに君自身を  
愛することが  
できていない

滅びることに  
悲しみの感情を  
抱かないのが  
その証拠だ



僕らは長すぎる  
回り道をした上に  
結局のところ  
辿り着いたのは  
行き止まりだ

すまないと  
思ってる……



強さのために  
怒りを

怒りのために  
愛が

そして愛のために  
未来が必要  
ということね





いいえ  
私は後悔なんて  
していない

貴方から  
受け取ったものは  
全て大切な宝物です

今ここに未来が  
ないのなら新しく  
創り出せばいい

まだ何の枷も  
嵌められていない  
白紙のままの運命を

それは……

いつか貴方に希望を  
もたらす存在を  
産み落とすことが  
できたなら――

私は女  
貴方は男

二人が揃えば  
新しい命を  
作り出せる

私は人体と同様に  
機能する子宮を  
備えています

それを成し遂げた  
自分自身を私は誇り  
愛することが  
できるでしょう

誰に憚ることもなく  
私の命とそこから  
連なる未来の運命の  
ために戦える

祈りを  
託して――





アイリ  
君はなぜ  
そこまで……

それは私が  
貴方より強いから

数多の戦いに  
生き残ってきた貴方は  
自分が誰よりも  
強かったのだと思って  
いるのかもしれない

でも貴方はただ  
敵の死が自分より  
早くなる選択を  
してきただけ

それは自分が  
より長く生き  
永らえることと  
同義ではない

貴方が手に入れた  
強さは死に急ぐ中で  
敵の死をさらに加速  
する手段でしかないわ

そんなものは  
本当の強さではない

前にもそう  
言ったはずですよ



決して  
誇めないこと

どんな窮地にも  
それを打開する  
策を見出し  
実行できること

自らの滅びの  
果てにまで  
達成の意志を  
継承すること

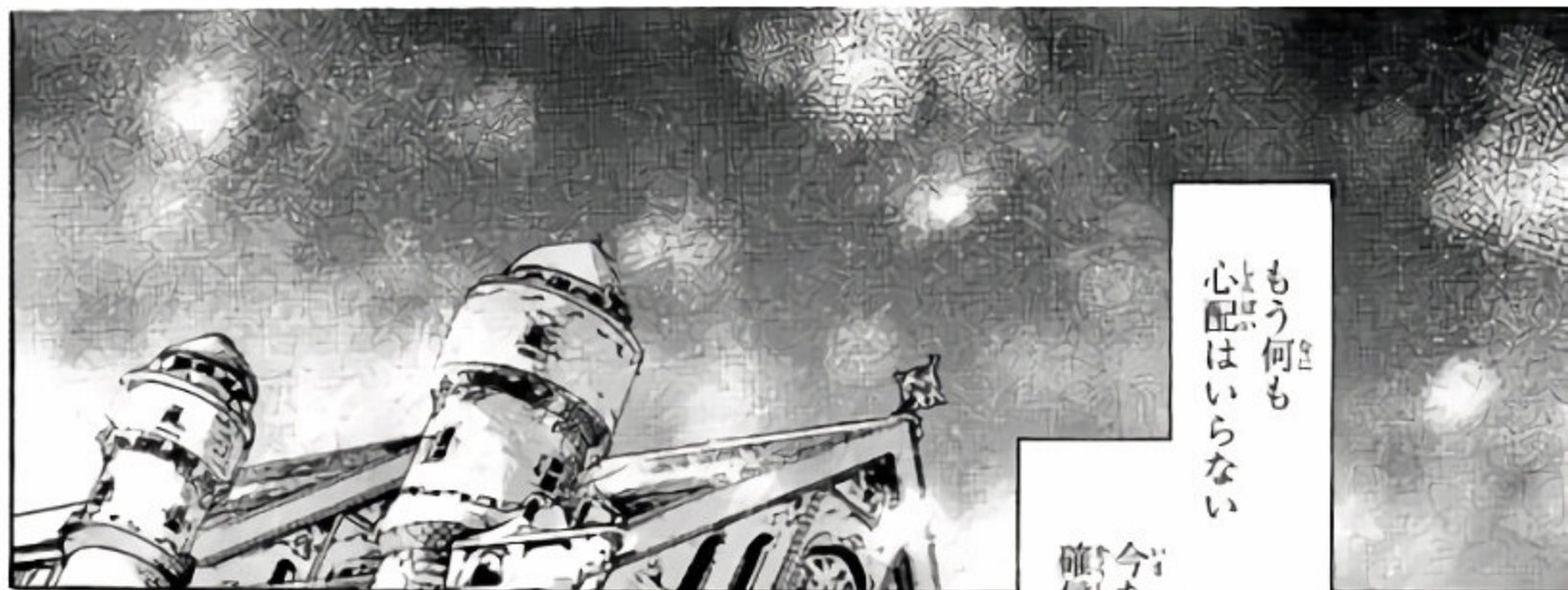
それが  
アインツベルンの  
完璧なる  
ホームクルスの強さ

貴方がまだ  
手に入れていない  
真に強靱なる  
魂の力なのよ

そうか……

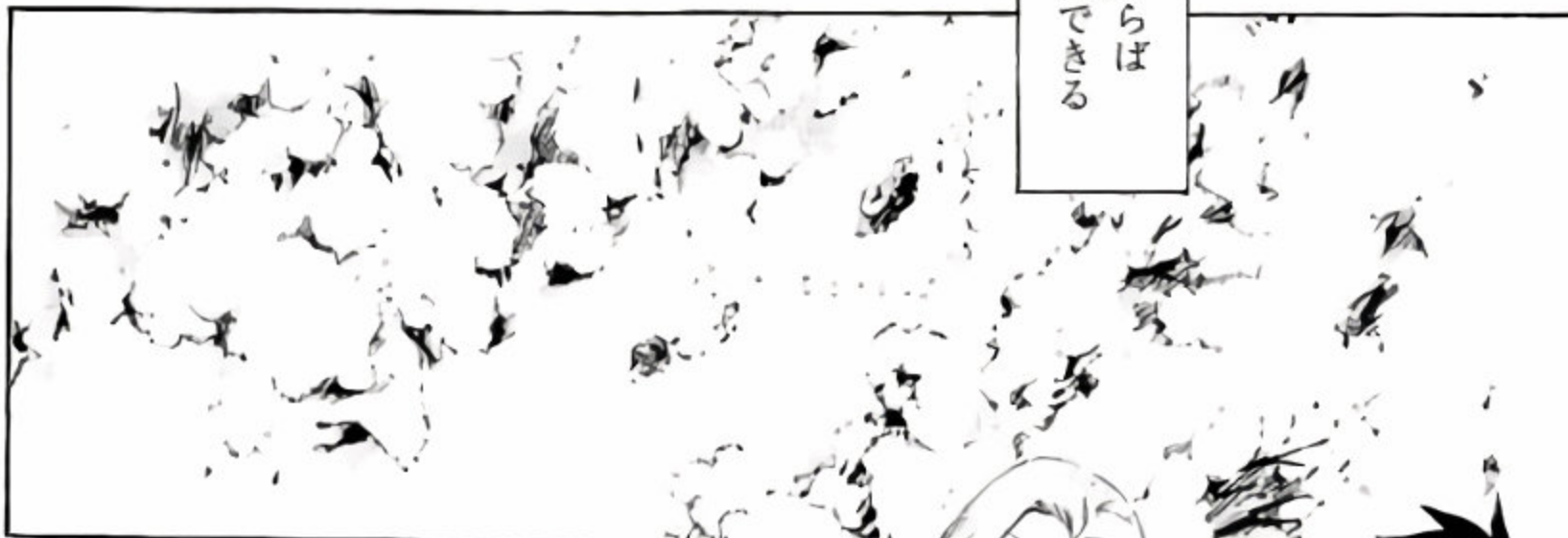
どうやら僕は  
君には  
敵わないようだ





もう何も  
心配はいらない

今ならば  
確信できる



僕と君なら  
どんな敵にも  
屈することなく  
きつと聖杯に辿り  
着けることだろう







戦いの果ての  
新たな希望は  
僕たちの子が  
受け継いでくれる



Fate

フェイト/ゼロ

Zero

Staff/

春乃えり、綾野貴弘、夏目りく